# 被害額は70億円に
## 先端研究に大きな影響

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、本学の先端研究にも大きな影響を与えた。被害額は約70億円と見積もられている。被害の状況と今後の影響について、研究基盤総合センター応用加速器部門長の喜多英治教授（電物）、遺伝子実験センター長の鎌田博教授（生物科学）、本学の藻類バイオマス燃料資源開発の先頭に立つ渡邉信教授（生命共存）に話を聞いた。

◇

研究基盤総合センターでは、年代測定やナノテク物質分析、宇宙核物理研究などが行われていた応用加速器部門の12UDペレトロンタンデム加速器が壊滅的な被害を受けた。加速器の主要部が加速タンクの底部に落下し、修復が困難に。同加速器は国内でも最大級の静電型加速器であり、他の加速器を利用して実験を行うことを考えている。しかし、本学の加速器装置とは構造が違うため、実験内容を変更することが必要だ。

また、本学の藻類バイオマス燃料資源開発実験は、藻類からオイルを生産する研究で世界のトップに立ってきたが、5つあった実験室のうち、プロジェクト研究棟内の実験室が壊滅的な被害を受けた。主要な藻類である「オーランチオキトリウム」は持ち出して無事だったものの、実験機器や分析機器が損傷。被害額は5000万～1億円にのぼると見られている。

現在では実験が再開されているが、同研究棟内での実験は地震前の10分の1程度に留まっており、研究の遅れが懸念される。しかし、その他の実験室では実験は通常通り行われており、学生の研究活動への影響は基本的にはないという。

渡邉教授は「プロジェクト研究棟であればほとまでに大きな被害が出るとは想定していなかった。今後は実験装置の配置を再考しなければならない」と語った。

遺伝子実験センターでは、建物への被害はなかったものの、地震後2日間停電した。その結果、ディープフリーザー（超低温庫）の温度が、本来のマイナス80度からほぼ0度まで上昇し、冷凍保存されていたDNAなどの生物資料などが溶けてしまった。その多くが使えなくなってしまった可能性があるという。20年以上かけて集めてきた生物資料が失われたこともあり、その損失は大きい。

今回のような非常時に対応するために、重要な生物資料などについて東日本と西日本にそれぞれ同じものを保存して置くという「生物材料保存拠点」の設置が検討されている。大学の枠を超えて、日本全体でのシステム構築が求められる。

電気事業法第27条に基づいて大学に課せられる電力使用制限も実験に影響する。同センターにはディープフリーザーが約30台あるが、実験を厳選して運転台数を減らすことも検討している。「どこに優先的に電気を回すか、実験のスケジュールをどうするかなど今後考えていく必要がある」と鎌田教授は話った。

地震前の加速器（左）と地震で落下した加速器主要部

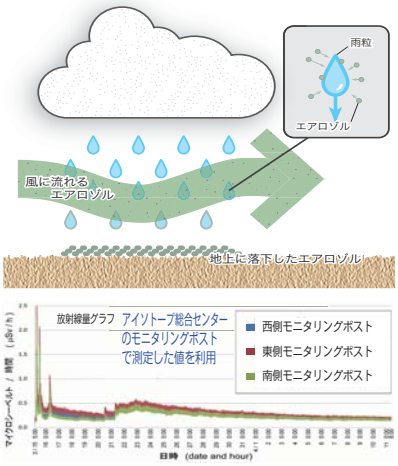
## 放射線量は落ち着く
## 健康への影響なし

東京電力福島第一原発事故を受け、本学は3月18日からホームページで放射線量のグラフを公開している。アイソトープ総合センターに設置されたモニタリングポストを利用して数値を計測している。前センター長の大塩寛紀教授（物質創成先端）がセンターの設備で線量を計ることが出来ると大学に提言し、公開することになった。モニタリングポストは本来、放射性物質を扱うセンターの安全管理のために設置されており、点検や修理を除き常時稼働している。

本学の線量は事故直後に急増したが、現在は落ち着いており、穏やかな減少傾向にある。事故以前に毎時約0.04マイクロシーベルトであったものが、いまのところ毎時約0.1マイクロシーベルトで推移している。年総量に換算しても世界平均値の年2.4ミリシーベルトには至らないレベルだ。わずかに線量値が高くなった原因は、原発から飛来した放射性物質を含むエアロゾルの一部がつくば市内で落下し、地表に降り積もったからである。木名瀬栄准教授（化学）は「もし原発から何か放出されれば、線量グラフは平らな状態を保ち動き出す」と説明する。

雨が降ったら線量が増えるというのは、必ずしも正しくない。「センターでは3月21日に雨水を収集して線量を計った。比較的高い数値が出たのは確かだ」と木本准教授。このとき線量が増加したのは事実だが、訳がある。低空を流れていたエアロゾルに雨が直撃し、雨粒に付着したエアロゾルが地上まで落下し始めた。本来地表に到達するはずがなかった放射性物質が地表に落下することとなったのだ。雨のほかに雪や霧でも同様の現象が起こる。雨による放射能汚染を心配する声もあるが、木本准教授は「原発方向からの風が無ければ、雨が降っていても線量は増えない」と付け加える。

ここ最近、自治体や学校などが独自に線量を計測して、公開する例が増えてきた。恐らく市民の不安を汲んでのことだろう。だが原発から遠く線量が急増したとかかったとしても手遅れだ。それよりも原発そのものの状態を注視しよう。もちろんこれ以上、原発から放射性物質が拡散しないに越したことはない。一日も早く事故が収束することを願いたい。



【図解】突出した部分はエアロゾルがつくば市を通過したことを示す。（アイソトープ総合センター提供）

**【ことば】** エアロゾル＝気体の中に微粒子が多数浮かんだ物質のこと。福島第一原発から放射性物質が放出された際、放射性物質が大気に混ざり風に乗って各地に飛来したり、モニタリングポスト＝放射線量を計測する装置。高さ1.2メートルほどで箱状、上部に突起のような物が着いている。

宿舎祭前夜祭のフィナーレを飾る火文字「和」。炎が灯るに連れ会場の雰囲気は次第に盛り上がった。観客は炎の輝きと太鼓の響きの調和に、心を震わせた。（写真・井口理恵子＝人文学類）

つくば歳時記

## 起業家教育講座
# 起業目指す学生を育成
## つくば市・インテルと連携で

今夏から本学、つくば市、インテルの3者が連携して起業家教育を実施する。年間8回程度の講座を通じて、ベンチャー企業を目指す学生やつくば市内のベンチャー経営者等を対象に、講演会やワークショップが開催される。内容は精神論からマーケティングまで多岐にわたる予定。

7月2日（土）に第1弾としてキックオフ講演会が開催される。このイベントでは、インテル株式会社副社長の阿部剛士氏がベンチャー時代のチャレンジ体験を織り交ぜながら、元オリンピック日本代表のプランタンジャポン社長の田辺寿氏がエベレスト遠征隊や企業経営に関連させてリーダーシップについて講演する。

今回の提携は昨年12月にインテルから提案された。提携には社会人スキル教育、起業家教育、テクノロジー教育の三本柱があり、今回の講座はその一環だ。

本学が昨年結んだ産業界との提携数は85件と東京大学に続いて第2位。また旧東京教育大学の強みを活かし、教育学が発展している。この2点がインテルに好感を与えたようだ。

◇

起業家教育講座キックオフ講演会

7月2日（土）午後1時30から4時30分まで。つくば市サイエンスインフォメーションセンター大会議場にて。参加には産学リエゾン共同センターへ事前登録が必要。

連絡先＝029・853・2906　tto@ilc.tsukuba.ac.jp

筑波大学新聞
第293号
編集責任
筑波大学新聞
編集代表
荻野祥三
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月　刊
発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1－1－1

紙面から

新たな感染症子　征矢英昭教授が発見　2
つくば芸術祭　震災乗り越え開催　5
関東インカレ　女子総合で19連覇　8
柔道ワールドカップ　緒方が優勝、西山は準優勝　9
電力不足問題　節電意識の徹底を　10
第37回宿舎祭　雨天のため本祭中止　11
特集　2,3
あれから変わった
筑波の防災
特集　6,7
学生団体特集
「つくばの外」を見てみよう!

## 筑波おろし

中央図書館の前に置かれたプランターに、ゴーヤの苗が植えられた。やがて涼しげなグリーンカーテンになるだろう。それにしてもつくばの夏は暑い。九州生まれの私としては、じめっとした暑さは不快この上ない。どのようにして夏を乗り切るか。今から悩ましい▼本学が消夏法として打ち出したのがうちわ。支援室など大学の各所で配布している。表には「SAVE POWER」、そして裏にはおなじみの「IMAGINE THE FUTURE」と書かれている。日本でも屈指の先端科学研究を誇り、未来を考える本学でも、電力不足の今夏を救うのはうちわなのだろうか▼クーラーのついていない教室でうちわを扇ぎ、思い出したのが祖母の家で過ごした夏だ。打ち水やだれを垂らすなど昔ながらのやり方で夏を乗り切った。昔ながらの消夏法が私たちに教えるものも少なくない▼それにしても、先端科学の結晶ともいえる原発に端を発する問題が過去の生活に回帰することにつながるとは何とも皮肉だ。だが、ここは前向きに考えるしかない。ゴーヤを用いた最もポピュラーな料理といえばゴーヤチャンプルー。チャンプルーは沖縄の言葉で「混ぜこぜにした」という意味だ。先端科学と良き伝統のチャンプルー。これからの日本に求められるレシピとなるに違いない。

# あれから変わった　筑波の防災

東日本大震災では、本学の防災上のさまざまな問題点が浮き彫りとなった。しかし震災での教訓を得て、それらの問題が改善へと向かいつつある。再び襲うかもしれない災害に備えるため、大学は、学生は何をするべきなのだろうか。本学の防災の「今」を追った。（本紙・長島一真、松本東奈＝人文学類、小川玲、二宮健太＝社会学類、宇治田輝之、根津彩香＝国際総合学類）

## 学内

### 日頃から危機意識を

例えば授業中や食堂で友人と談笑している際、あるいはサークル活動中に、突然の揺れに襲われたら、あなたはどうするだろうか。3月11日以前には、全学的な防災訓練はなく、また、避難経路や避難場所が十分に周知されていなかったという問題があった。地震当時、大学会館で授業を受けていた女子学生は「どこに避難すればよいか分からず、教員からの指示もなかった」と当時の様子を振り返る。震災でTWINSの登録方法の説明を行っていた。揺れが大きかったため、司会者の男子学生は説明を中断し、机の下に待避するよう全体に指示した。また、入り口の扉を開けて出口の確保を行った。「3月11日を境に危機意識を強く持つようになったため、行動に出た」と指示を出した男子学生は語った。

第一エリアで行われた避難訓練の様子

各エリアでは、避難訓練も実施された。第一エリアでは、震度6弱の地震が発生したという想定で、4月25日に避難訓練が実施された。学生ら災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

地震を受け、各講義教室や学内施設などには避難経路と避難場所が掲示されるようになった。一方で、人文学類での動きに見られるように、学生の間には危機意識が芽生えつつある。避難経路や避難場所を事前に知っておくことが重要になろう。

大地震から1カ月後の4月11日の夕方、つくば市を震度5弱の余震が襲った。当時、本学の人文学類では、地震が発生した際には、非常放送を使って安全を確保することを促し、その後、授業担当教員が避難指示を出し、支援室の職員の誘導に従って指定された扉外の避難場所に避難することを定めている。今回の避難訓練も、このマニアルをもとに実施された。

当日は、支援室およびスチューデントプラザの職員が、このような困難を実際に体験した。また、アパート居住者は宿舎に住む学生も、地震後の一人暮らしに不安を感じていた。

もし再び大規模災害が起こった時、大学はこれらの学生にどのような支援を行ってくれるのだろうか。まった、宅通学生やアパート居住者はどう行動すれば良いのだろうか。本学の防災対策を担う総務課に話を聞き、大学から学生への支援や学生自身が出来ることをまとめた。

◇

千葉県から通学する女子学生は「つくばエクスプレスが運行中止となってしまったが、大学に居ても避難場所を知ってもらうことが目的だった。

震災が発生した際には、授業中に地震を受け、授業を行い、授業中に地震が発生した際には、教員の適切な指導による避難訓練が4月11日の新入生オリエンテーションの時間中に実施された。入学したばかりの新入生に避難経路や避難場所を事前に知ったうえで、学内で地震が発生した際に落ち着いて避難を行い、授業中に地震が発生した際には、教員の適切な指導による避難訓練で見られたこれらの問題は、アンケートを取るなどして改善を検討している。

また、第三エリアでは、新入生を対象とした避難訓練を実施することにしている。地震を受けて作成し直した防災訓練マニュアルでは、授業中にいた学生に災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

そのため、月曜日の総合科目の授業中という、多くの学生が集まる時間帯に避難訓練を実施することにしている。地震を受けて作成し直した防災訓練マニュアルでは、授業中にいた学生に災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

## 宿舎

### 自主自律が必要

突然の地震で、どうしたら良いかわからない。情報不足により、多くの宿舎居住者が途方に暮れた。一方で一部の学生は、自力で行動出来るにもかかわらず、水や食料の配給をただ待った。今回の地震では、宿舎からの情報不足と学生の意識の低さという、双方の問題が浮き彫りとなった。

一ノ矢学生宿舎ではライフラインが遮断され、大学の判断により居住者を春日エリアへ移動し一夜を明かした。一方、平砂宿舎では、地震発生後、建物の安全を確認するために宿舎への立ち入りを禁止するという放送が流れた。避難場所を知らない居住者は最低限の荷物と共に建物の外に立ちつくした。当初、避難場所には共用棟が指定され、多くの学生が詰めかけたが、建物の安全確認後は、管理事務所から居住者に自室に戻れるとの連絡をした。平砂宿舎はライフラインが安定していたために、居住者は普段通りの生活が送れると判断しての措置だった。

しかし実際に部屋へ戻るか否かが不明瞭で、さまざまな情報が流れ混乱が生じた。館内放送をより有効に使い、宿舎のライフラインに関する掲示板を新たに設置するなど、学生へ情報を提供する方法などは改善すべき点があったと言える。

その一方で、学生の意識の低さも問題だ。つくば市では大きな地震が発生したという想定で、4月25日に避難訓練が実施された。学生ら災害時の避難経路や避難場所が十分に周知されていなかったという問題があった。地震当時、大学会館で授業を受けていた女子学生は「どこに避難すればよいか分からず、教員からの指示もなかった」と当時の様子を振り返る。震災でTWINSの登録方法の説明を行っていた。揺れが大きかったため、司会者の男子学生は説明を中断し、机の下に待避するよう全体に指示した。また、入り口の扉を開けて出口の確保を行った。「3月11日を境に危機意識を強く持つようになったため、行動に出た」と指示を出した男子学生は語った。

各エリアでは、避難訓練も実施された。第一エリアでは、震度6弱の地震が発生したという想定で、4月25日に避難訓練が実施された。学生ら災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

地震を受け、各講義教室や学内施設などには避難経路と避難場所が掲示されるようになった。一方で、人文学類での動きに見られるように、学生の間には危機意識が芽生えつつある。避難経路や避難場所を事前に知っておくことが重要になろう。

大地震から1カ月後の4月11日の夕方、つくば市を震度5弱の余震が襲った。当時、本学の人文学類では、地震が発生した際には、非常放送を使って安全を確保することを促し、その後、授業担当教員が避難指示を出し、支援室の職員の誘導に従って指定された扉外の避難場所に避難することを定めている。今回の避難訓練も、このマニアルをもとに実施された。

当日は、支援室およびスチューデントプラザの職員が、このような困難を実際に体験した。また、アパート居住者は宿舎に住む学生も、地震後の一人暮らしに不安を感じていた。

もし再び大規模災害が起こった時、大学はこれらの学生にどのような支援を行ってくれるのだろうか。まった、宅通学生やアパート居住者はどう行動すれば良いのだろうか。本学の防災対策を担う総務課に話を聞き、大学から学生への支援や学生自身が出来ることをまとめた。

◇

千葉県から通学する女子学生は「つくばエクスプレスが運行中止となってしまったが、大学に居ても避難場所を知ってもらうことが目的だった。

震災が発生した際には、授業中に地震を受け、授業を行い、授業中に地震が発生した際には、教員の適切な指導による避難訓練で見られたこれらの問題は、アンケートを取るなどして改善を検討している。

また、第三エリアでは、新入生を対象とした避難訓練を実施することにしている。地震を受けて作成し直した防災訓練マニュアルでは、授業中にいた学生に災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

そのため、月曜日の総合科目の授業中という、多くの学生が集まる時間帯に避難訓練を実施することにしている。地震を受けて作成し直した防災訓練マニュアルでは、授業中にいた学生に災害時の避難経路や避難場所を再認識してもらうことが目的だった。

## 宅通・アパート

### 情報得る努力を

家に帰りたくても電車が動かない、つくばに残りたくてもどこに行けば良いのか分からない――東日本大震災では、自宅から通学する、いわゆる「宅通」学生が、支援を受けることは出来ないだろうか。

また、アパート居住者はなかったのだろうか。

しかし、施設や指揮系統に大きな被害があった場合、避難所の開設や帰宅支援などが実際に行えない可能性もある。日頃からつくば市のサイトなどを活用しておいたりするなど、自分で出来る対策をしておくことも必要だ。

また、総務課の須藤英世課長補佐は「緊急時には、学生や教職員の安否確認の復旧が遅れたり、水や食料などの物資を手に入れる事が出来ないなど、地震そのものよりもその後の一人暮らしに困難を感じた学生もいた。

総務課の黒岩直行係長によれば、本学では防災マニュアルなどの作成を行っていたが、地震発生時はまだ制作途中であったという。

大学からの情報や支援を受ける場合は、各支援室に問い合わせるのもひとつの手段だという。

宿舎に住むよりも大学の支援や情報が届きにくい宅通学生やアパート居住者。大学からの情報や支援を受けるだけでなく、あらかじめ情報を集めたり自分で行動をシミュレーションするなど、能動的な防災を心掛けたい。

## アンケート

本学の防災態勢や防災意識について教員を対象にアンケートを実施した。教員は学類ごとに無作為に10人ほど抽出した。回答は39人から得られた。

「大学から地震発生時の対策について指示をうけたかとの質問には38人が「はい」と答えた。まずは机の下に身を隠すよう指示し身の安全を図り、その後避難場所へ避難させるように指示を受けたという。

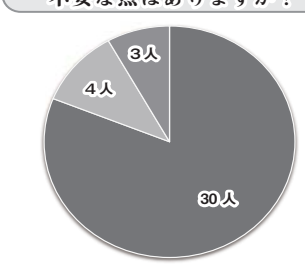
しかしその一方で、このように指示を受けた内の8割は、この対応が不十分だと回答した。最も多かった意見は「マニュアルが配布されはいても、実際に避難をするかどうかが教員個人に任せきりになっている」というものだった。さらに「一斉放送設備が無いため、全体へ避難指示が出来ない」という指摘も多かった。効果的な避難を行うためには、避難基準を個人に一任するのではなく、一斉放送設備を導入し、避難指示を明確に伝える事が求められる。

また、震災時は大学からの情報発信をホームページで行っていたが、停電などでインターネットが使用出来なくなった場合、情報伝達手段がなくなってしまうという指摘もあった。非常時に情報を公開する窓口を設けたり、クラス制度を活用して連絡網を整備するなど、情報伝達の問題への対応も必要となるだろう。

だが、震災での本学の対応は迅速だったとの評価もある。さらに地震の1、2カ月前に行われた「安全パトロール」で、各研究室の棚の固定などを促したことで、被害を抑えられたという意見もあった。震災以前より行われていた本学の防災対策も有効であった事が伺える。

多くの教員からは「備えあれば憂い無し」という言葉が寄せられた。以前から行われていた防災対策をきちんと充実させ、さらに今回の震災で浮き彫りとなったこれらの問題を解決する事で、再び襲うかもしれない災害に備える事が期待される。

**Q：本学の防災対策に不安な点はありますか？**




**Q：どのような点に不安を覚えますか？**

※上位5つ、複数回答

| | |
|---|---|
| ①避難の基準が教員任せ | 10人 |
| ②放送設備が整っていない | 9人 |
| ③情報発信に問題がある | 8人 |
| ④避難訓練などが少ない | 4人 |
| ⑤水や食糧などの備蓄がない | 3人 |

東日本大震災

# ～3.11 どう活かす!?～

## 耐震性

ペストリアンに走る亀裂に、教室に見られる無数のひび割れ、そして使用禁止のままの施設―。本学の所々には「立ち入り禁止」のテープやコーンが未だ設置されている。このような風景を見るにつけても、震災の記憶を呼び覚まされ、本学の施設、設備に不安を抱いてしまう学生も少なくないのではないだろうか。

本学の建物への震災被害と復旧作業、そしてこれからの耐震対策はどうなっているのか。施設部施設企画課の飯村雄課長補佐に聞いた。

飯村さんによれば、施設部では概ね4月の中旬までに大学構内を調査、その結果、被害を受けた箇所が多いことから、必要な部分を優先して復旧を行なってきた。特に宿舎・教室等関連のインフラの整備や、新学期の開始に間に合わせるため学校関係の教室を最優先させた。大学病院では「患者の精神的な部分に配慮して」壁の亀裂にシートで目隠しするなどの急処置を施した。本格的な復旧はこれからで、被害の大きかった総合体育館や体芸図書館等を除き、9月、10月をめどに進めていくという。

耐震対策については、文部科学省に予算を要求している。しかし、今年度耐震工事の予算が認められたのは概ね9割程度であり、残りは来年度以降の予算要求は続けていく。

本学ではI・G棟、中央図書館、芸術学系棟が、3年をかけた耐震対策を完了させたばかり。施設企画課では「政府から予算が認められた時のために、対象の建物について工事の方針を検討するなど準備している」とし、予算要求は引き続き続けていくという。飯村さんは「震災で被害を受けた建物に差し迫った倒壊の危機はなく、再び3・11規模の地震が襲っても倒壊する可能性は低い。余震が続いているので、学生の皆さんは十分に注意して学生生活を送って欲しい」と呼びかけている。

私たちは震災を通じて、災害に関する事柄に「絶対」は無いと学んだ。防災対策には、個々人が意識を高めていくことが何より必要だ。余震に慣れて、地震そのものへの警戒を怠ることがないように、気をつけて生活していきたい。

## 余震への注意促す

## 一斉放送

教室で鳴り響く緊急地震速報のアラーム音。実際に地震が起き、その後重なるのが、どう動くかだ。避難を行うのか、行かないのならどこに避難するのか。授業中のシステムの構築が挙げられる。だが、多くの建物を有する広大な本学のキャンパス一斉放送を行うシステムの構築については、多額の予算が必要となるという。

更に、一斉放送のシステムを整備した場合、緊急地震速報を導入することもでき、緊急地震速報を活用すれば、少しでも早く安全行動を取ることが出来る。適切な行動をとることが求められる。「今後も学生の安全を確保しつつ、教育・研究環境も充実させていきたい」と黒岩さんは語る。

一斉放送の設備が整えば、大学側から統一的なアナウンスを行うことが出来る。その結果、落ち着いた避難が行われ、被害抑えることにつながる。余震活動がなお続く現在、いち早い対応が待たれる。

総務課の黒岩直行さんは「現在、建物ごとに放送設備が備えつけられているものの、それぞれ独立しているため、全学に一斉放送を行うことが出来ない」と話す。今後の危機管理体制の一つとして、学内ネットワークを利用した一斉放送

## 被害を抑える鍵に

## 緊急地震速報

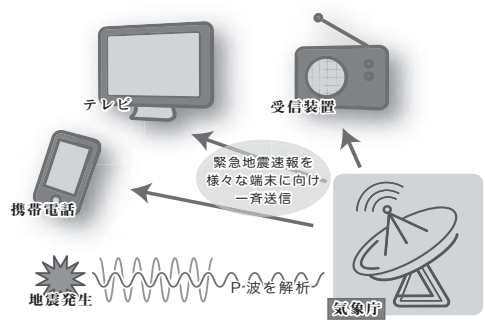
## 正しい理解が必要

全国に配置した地震計で検出し、S波の到達時間を予測。大きな揺れに結びつくようなP波が検出された場合、速報を発表する。

しかし、大規模な地震に対しては推定精度に限界があり、また複数の地震が近接に発生すると地震を的確に分離できず、的確な速報を発表出来ないことがある。今回の東北地方太平洋地震は大規模かつ広範なものであったため、緊急地震速報の誤報が増加したのである。

また、私たちが緊急地震速報を受信する際には、気象庁のデータに基づいて行われる。つまり、緊急地震速報が入れるのは、携帯やテレビ、ラジオなどの受信側のミスによるものではない。緊急地震速報を無視することなく、適切な避難行動を取ることが重要である。

誤報はあるものの、それは緊急地震速報のシステムより生じるのである。




脳内グリコーゲンが原因

## 新たな疲労因子見つかる

## 疲労の予防・軽減に期待

本学の征矢英昭教授（体育）と松井崇さん（体育3年）の研究チームは、脳内のグリコーゲンの減少が疲労をもたらす原因になっていることを初めて明らかにした。脳グリコーゲンは運動時の脳にとって非常に有力なエネルギー基質であり、これを維持出来れば、長時間の運動や労働、また勉強時の疲労を予防・軽減することが可能になる。

これまでマラソンなど長時間の運動の際には、筋肉・肝臓のグリコーゲンの枯渇が主な原因で疲労が生じるとされてきた。脳が主体となり感じる中枢疲労については不明な点が多かったが、脳内モノアミン（神経伝達物質）として知られるセロトニン・アドレナリンや低血糖が関与しているのではないだろうか。

研究チームは、これまで測定が困難だった脳グリコーゲンを、マイクロ波を用いて正しく測定する方法を確立した。この測定法を使い2時間走らせ続けたラットの脳を調べた結果、海馬や小脳などの運動をつかさどる部位においてグリコーゲンが約5割減少していた。また、モノアミンセロトニン・ノルアドレナリンの上昇や血糖値の低下と、脳グリコーゲンの減少が同時に起こっていることもわかった。モノアミンセロトニンは脳グリコーゲンを分解する物質であるため、それらの増加が脳グリコーゲンの減少をまねき、疲労が生じるということが判明した。脳グリコーゲンの減少が、もっとも大きな疲労因子である可能性もある。

征矢教授は「今後は脳グリコーゲンを維持する栄養処方やサプリメントの開発により、効果的に疲労を予防することが出来ると期待している」と語る。

東日本大震災に関する報告会

## 耐震対策を説明する

## 津波対策に新基準の必要

本学工学システム学類の教員による、東日本大震災に関する報告会が5月23日に3B302で行われた。

報告会では本学の防災関係の研究をしている教員と、南部地震に比べ、揺れによる建物の被害が圧倒的に少なかったことについて解説した。境教授によると、建物に大きな被害が出る揺れの周期は1～2秒だが、今回の揺れの周期は0.2～0.3秒。揺れの周期が短かったために、震度は大きくとも建物の倒壊が少なかった。つまり、耐震性の高さが原因ではなく、今後も耐震対策が必要なことに変わりはないと説明した。

津波被害については、全国200人以上の研究者により行われた被災地沿岸の浸水、遡上の実態調査に参加した武若聡准教授（同）が報告した。武若准教授は茨城県と福島県の沿岸部を調査。海岸堤防の高さは、その地域の事情によって異なり、武若准教授が調査を行ったいわき市沼地区では堤防の高い地区と低い地区で津波被害に差があった。今後復旧工事が行われた時には、堤防の高さや浸水への耐性を見直す必要があると訴えた。武若准教授は、「これから梅雨に入り、水位が上昇して市街地に危機が訪れる可能性もある。この先、震災で国土が弱っていたことを痛感するかもしれない」と語った。

スライドを用いて説明する武若准教授

本学附属病院

## 北茨城市から感謝状

## 迅速な対応が評価に

北茨城市は5月26日、東日本大震災の発生から迅速な医療対応を受けたとして、本学附属病院の災害派遣医療チーム（DMAT）に、感謝状を贈呈した。

北茨城市には全国各地からDMATや医療チームが派遣されたが、同病院のメンバーらは最も早く到着し先陣隊として後着のDMATの指導や統括を行った。

同病院のDMATは消防などと連携し、震災で致命的な被害を受けた北茨城市の市立病院から入院患者約90人を転院させた。

また、他のチームの引き上げ後約2週間に渡って、医師や看護師を派遣し、カルテや料資材を分配するなどの人的、物的な支援を行った。

贈呈式は本学附属病院で行われ、豊田稔市長が五十嵐徹也病院長に感謝状を手渡し、被害が最小限に済んだことを感謝した。五十嵐病院長は、今後の支援の継続を約束し、北茨城市の早期復興を願った。

五十嵐徹也院長（左）と豊田北茨城市長

前立腺がん再発

## 抗エストロゲン剤が抑制

再発した前立腺がんの細胞増殖を、抗エストロゲン剤（女性ホルモン抑制剤）が抑えることを、本学の柳澤純教授（生物機能）らの研究チームが明らかにした。柳澤教授らはこの実験結果を踏まえ、前立腺がんの新薬開発につながる研究を進めている。

柳澤教授らは、再発したがん細胞をマウスに移植し、抗エストロゲン剤を注射した。すると、腫瘍の大きさが4週間で半分の大きさに縮小していた。調査したところ、前立腺の中にあった前立腺がんを抑制するたんぱく質が、抗エストロゲン剤を入れることによって増加していたことが分かった。

柳澤教授は「新薬が実際に治療に使われるまでには10年ほどかかるが、今後は協力してくれる製薬会社を探したい」と話した。

---

**楠本捷一朗氏（くすもと・しょういちろう＝本学名誉教授）** 5月1日、死去。74歳。1989年本学社会工学系教授、2000年名誉教授。

**新井敏弘氏（あらい・としひろ＝本学名誉教授）** 5月5日、死去。79歳。1979年本学物理工学系教授、87年第三学群長、91年附属図書館長、95年名誉教授。

**吉沢能政氏（よしざわ・よしまさ＝筑波大学名誉教授）** 6月3日、死去。76歳。1990年本学副学長。

# 反射鏡

## 「ミクロ」の情報伝えるツイッター

宮本皓（社工2年）

最近、ツイッターが沢山の人に使われている。ツイッターとは140字以内で自分の言いたいことを発言するミニブログである。自分の発言は自分のことを「フォロー」したユーザーが閲覧することができる。また、自分がフォローした人の「呟き」を自由に見ることもできる。使い道は人それぞれで、ある問題について意見交換をする人、友人同士で会話をする人、情報の拡散に使う人など、使用目的は様々である。

ところで、私は社会学類で都市防災を勉強している。ツイッターは震災後に情報源として使われたので、今回はツイッターと震災後に流れた情報について書こうと思う。

3月11日にマグニチュード9.0、最大震度7を記録した東北太平洋沖地震が発生した。震源の東北では大きな被害があり、震源から離れた関東周辺でも計画停電や商品やガソリンの品切れが起こり、住民の間で混乱が発生した。この時、情報源として役に立ったのがツイッターである。ツイッターを使って多くの人に、どこの店に商品が入荷したか、どこの施設で被災者の受け入れを行っているかといった情報を広めて震災後の情報源の1つとした。

「デマが流れて人々を混乱させる原因にもなった」との意見もあるのだが、私は、ツイッターは震災後の情報を早く集める方法の一つであると思う。ニュースで流れる情報は被災地の状況や列車の運行状況、原子力発電の状況といった「マクロ」の情報である。私どもの店が営業しているか、どこの店が計画停電で営業中止になったか、どこの商店・オフィスを帰宅困難者に開放するかなどの個人単位で活動している「ミクロ」のデータは集めにくい。もちろん、交通状況や被災状況などのマクロの情報も必要になるが、避難や日常の買い物をする際にはミクロの情報が必要である。私は、どの情報を欲しいかによってニュースとツイッターを使い分けることが上手い使い方だと思う。確かにツイッターにはデマも流れているが、上手く活用することによって自分の欲しい情報を正確に集めることができると思う。

## 友人と会うきっかけ作り

自戸顕二（国総4年）

携帯電話を見る時間が増えていく。最近ミクシィを始めたのだ。ツイッターもブログもやっていない私としてはこれが初のSNSだ。

はじめはミクシィ上のゲーム（まちつく）にはまった。しかし、私はのめり込むと止まらない性質があるので、すぐに止めた。これも交流の1つの形だろう回線生にマイミク（仲良し）が、課金しないと手に入らないアイテムもあるので、やめて良かったと思う。

今のところ私は新しい知り合いを増やすことにミクシィを使っていない。無数にあるコミュニティに参加することで自分と全く接点のない人物とも知り合えるのだが、コミュニティ内の膨大な参加人数を見るとどんな人が紛れているか分からないので遠慮している。

だから、私は友人同士の交流を楽しむために使っている。あまり話さなかった人とやりとりするのは良いのだが、やはり直接会って話す方がずっと楽しいし、実りも大きい。会う約束をするのに使うとか、そういうやりとりに適している。

今後、他のSNSは使わないだろう。あまり広げすぎると、それぞれのSNSで更新しなければならなくなるので、手間が掛かる。1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。全てのSNSで自分の書き込みが同期出来るのかもしれないが、そこまでやるのは面倒だ。それより携帯電話もあるのだから、これをもっと使ったほうがいい。何のために月に何千円も払っているのか分からない。

もっと手軽で、心が伝わるのは、なまで聞く「おはよう」の一言だ。これを読んでくれたあなたも、きっとそう感じるだろう。

## 顔を知らない親友との絆

原啓一郎（社学1年）

高校生の頃に自分のブログを始めてもう2年になるが、私はその場所に幾度となく助けられてきた。当時の私は人間関係にやや疲れてしまい、自分の思う事のほとんどを飲み込んでしまうような人間だった。その代わりに自身のブログを運営し、言いたいこと、思ったことを事細かに、毎日1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。

当然ブログには読者がいる。そこまで数は多くなかったものの、私の意見をきちんと受け止めてくれる人がいて、私は顔も名前も知らない彼らとの交流を深めていった。文字だけの関係だろうと言われてしまえばそこまでだが、私にとって彼らは大切な友人だった。

確かに周りから見れば文字だけの希薄な関係で、そんな人達よりも実際の友人と付き合え、との言葉もあるだろう。けれど文字だけの関係だからこそ言えることがあって、それは向こうにとってもそうだった。オフラインの友人には言えないようなデリケートな悩みや本音を、私達は画面を通して語っていた。あの時間が無かったら間違いなく今の私は無い。

ブログの読者の1人と実際に会ったことがある。私のどろどろした悩みを親身になって聞いてくれた人と、前期入試の翌日に会って語っていた。あの時間は、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩に何度も言われたのは「ただ日本に住んでも、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩によれば、留学生と英語でしか話さない日本人が多く出来るのは普通だが、日本語で話してくれる相手はめったにいないと言うことであった。また、日本人論によると、日本文化は特徴が多過ぎて、日本は他の人間と違うようであった。もちろん、外国人の社会統合及び難いのは当たり前のことであった。従って、日本に来る前に「私みたいな馬鹿な外人と友達になってくれる日本人はいるはずだし、話しかけたら日本語で話してくれるはず」と強く思った。

後輩に教えたいのは、私が来る前に聞いた話の反対である。頑張って日本語で話せば、聞いてくれる相手が見つかると。

（イギリス・日日3年）

## 九州新幹線全通
# 新幹線の持つ可能性
# 国内外への更なる発信を

谷口守

東日本大震災の陰に隠れてしまったが、震災翌日の3月12日に九州新幹線鹿児島ルートが全通した。昨年12月には東北新幹線が新青森まで延伸していたため、これで青森から鹿児島までが新幹線でつながった。今後は2014年度に北陸新幹線が長野から金沢へ、2015年度に北海道新幹線が新青森から新函館へ延伸する。1964年に東海道新幹線が開通して以降、ここにきてわが国における高速鉄道整備は一つの新時代を迎えたといえる。

世の評論を待つまでもなく、新幹線がわが国の発展に寄与してきた役割は計り知れない。単に最高速度だけを見ると、他国においてはフランスのTGVなど、より速い高速鉄道も存在する。しかし、時間に正確で大量輸送に適した仕組みとして、その総合力では世界の中で新幹線の右に出るものはない。また、開通以来既に47年が経過しているが、鉄道側に問題がある死亡事故は発生していない。東日本大震災の際も早期地震検知システムによって、東北地方で旅客輸送中の27本の新幹線がすべて安全に停止したことは特筆すべきである。にもかかわらず、このようなすばらしい技術力の高さも原発事故の陰となり、国内外で十分に報道されていないのは誠に残念である。

新幹線がもたらす経済効果の大きさから、過去にその誘致を試みた地域は数多い。しかし、欲しいからといってどこにでも整備してもらえる性格のものではなく、そんな時代でもない。意思決定にあたっては社会的な費用対効果をきちんと考える仕組みが必要である。

筆者は縁あってそのための国の「鉄道プロジェクト評価手法マニュアル」の作成に参画する機会を得たが、本学ではシステム情報・学研究科（社会工学系）に所属する先生方がこのような交通プロジェクトの評価で多くの実績をあげている。

課題もまだある。航空機や自動車などに比べて、低炭素化という視点で環境性能がよいことはまだ過小評価されている。海外でも多くの国が高速鉄道の導入を考えているが、どのように日本で流れた情報について書こうと思う。

3月11日にマグニチュード9.0、最大震度7を記録した東北太平洋沖地震が発生した。震源の東北では大きな被害があり、震源から離れた関東周辺でも計画停電や商品やガソリンの品切れが起こり、住民の間で混乱が発生した。この時、情報源として役に立ったのがツイッターである。ツイッターを使って多くの人に、どこの店に商品が入荷したか、どこの施設で被災者の受け入れを行っているかといった情報を広めて震災後の情報源の1つとした。

「デマが流れて人々を混乱させる原因にもなった」との意見もあるのだが、私は、ツイッターは震災後の情報を早く集める方法の一つであると思う。ニュースで流れる情報は被災地の状況や列車の運行状況、原子力発電の状況といった「マクロ」の情報である。私どもの店が営業しているか、どこの店が計画停電で営業中止になったか、どこの商店・オフィスを帰宅困難者に開放するかなどの個人単位で活動している「ミクロのデータは集めにくい。もちろん、交通状況や被災状況などのマクロの情報も必要になるが、避難や日常の買い物をする際にはミクロの情報が必要である。私は、どの情報を欲しいかによってニュースとツイッターを使い分けることが上手い使い方だと思う。確かにツイッターにはデマも流れているが、上手く活用することによって自分の欲しい情報を正確に集めることができると思う。

## 友人と会うきっかけ作り

自戸顕二（国総4年）

携帯電話を見る時間が増えていく。最近ミクシィを始めたのだ。ツイッターもブログもやっていない私としてはこれが初のSNSだ。

はじめはミクシィ上のゲーム（まちつく）にはまった。しかし、私はのめり込むと止まらない性質があるので、すぐに止めた。これも交流の1つの形だろう回線生にマイミク（仲良し）が、課金しないと手に入らないアイテムもあるので、やめて良かったと思う。

今のところ私は新しい知り合いを増やすことにミクシィを使っていない。無数にあるコミュニティに参加することで自分と全く接点のない人物とも知り合えるのだが、コミュニティ内の膨大な参加人数を見るとどんな人が紛れているか分からないので遠慮している。

だから、私は友人同士の交流を楽しむために使っている。あまり話さなかった人とやりとりするのは良いのだが、やはり直接会って話す方がずっと楽しいし、実りも大きい。会う約束をするのに使うとか、そういうやりとりに適している。

今後、他のSNSは使わないだろう。あまり広げすぎると、それぞれのSNSで更新しなければならなくなるので、手間が掛かる。1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。全てのSNSで自分の書き込みが同期出来るのかもしれないが、そこまでやるのは面倒だ。それより携帯電話もあるのだから、これをもっと使ったほうがいい。何のために月に何千円も払っているのか分からない。

もっと手軽で、心が伝わるのは、なまで聞く「おはよう」の一言だ。これを読んでくれたあなたも、きっとそう感じるだろう。

## 顔を知らない親友との絆

原啓一郎（社学1年）

高校生の頃に自分のブログを始めてもう2年になるが、私はその場所に幾度となく助けられてきた。当時の私は人間関係にやや疲れてしまい、自分の思う事のほとんどを飲み込んでしまうような人間だった。その代わりに自身のブログを運営し、言いたいこと、思ったことを事細かに、毎日1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。

当然ブログには読者がいる。そこまで数は多くなかったものの、私の意見をきちんと受け止めてくれる人がいて、私は顔も名前も知らない彼らとの交流を深めていった。文字だけの関係だろうと言われてしまえばそこまでだが、私にとって彼らは大切な友人だった。

確かに周りから見れば文字だけの希薄な関係で、そんな人達よりも実際の友人と付き合え、との言葉もあるだろう。けれど文字だけの関係だからこそ言えることがあって、それは向こうにとってもそうだった。オフラインの友人には言えないようなデリケートな悩みや本音を、私達は画面を通して語っていた。あの時間が無かったら間違いなく今の私は無い。

ブログの読者の1人と実際に会ったことがある。私のどろどろした悩みを親身になって聞いてくれた人と、前期入試の翌日に会って語っていた。あの時間は、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩に何度も言われたのは「ただ日本に住んでも、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩によれば、留学生と英語でしか話さない日本人が多く出来るのは普通だが、日本語で話してくれる相手はめったにいないと言うことであった。また、日本人論によると、日本文化は特徴が多過ぎて、日本は他の人間と違うようであった。もちろん、外国人の社会統合及び難いのは当たり前のことであった。従って、日本に来る前に「私みたいな馬鹿な外人と友達になってくれる日本人はいるはずだし、話しかけたら日本語で話してくれるはず」と強く思った。

後輩に教えたいのは、私が来る前に聞いた話の反対である。頑張って日本語で話せば、聞いてくれる相手が見つかると。

（イギリス・日日3年）

## 留学生の目

イムジン・フランセス・クライトン・ライト

質問されるのはこうだ……どうして日本に来たのか、と。その答えは単純で、私の大学では日本語及び日本文化を学ぶ学生は皆留学しなければならないのである。それに対して、日本に来る頃は、日本語能力もかなり低く、家族と離れたくなく、自分の心には、日本に行く気があまりなかった。9カ月たったら、日本から離れたくなくなってしまって、また日本に住みたいと一生懸命思っている。それはつくばで会えた人々のおかげである。

日本に来る前の心配は、先生・先輩の話や授業のために読んだ本の結果であった。先生と先輩に何度も言われたのは「ただ日本に住んでも、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。

ツイッターなどのSNSの流行で、こういった関係が広がるかもしれないが、ツイッターだけでは難しいだろう。確かに十人十色で個性的な人が集まるとはいえ、たった140文字では厳しいものがあると思う。合える人とは、きっとこれからも色々な形で関わっていくのだろう。SNSというツールがある現代だからこそ、人間関係の形を、1人でも多くの人に知って欲しいと思う。

## 会話続いたときの喜び

## 次号のテーマは「道」です

連絡先
TEL　029・853・6699
e-mail　shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

今月のテーマ

SNSと私

# 筑波時評

## 新幹線の持つ可能性
## 国内外への更なる発信を



谷口守

東日本大震災の陰に隠れてしまったが、震災翌日の3月12日に九州新幹線鹿児島ルートが全通した。昨年12月には東北新幹線が新青森まで延伸していたため、これで青森から鹿児島までが新幹線でつながった。今後は2014年度に北陸新幹線が長野から金沢へ、2015年度に北海道新幹線が新青森から新函館へ延伸する。1964年に東海道新幹線が開通して以降、ここにきてわが国における高速鉄道整備は一つの新時代を迎えたといえる。

世の評論を待つまでもなく、新幹線がわが国の発展に寄与してきた役割は計り知れない。単に最高速度だけを見ると、他国においてはフランスのTGVなど、より速い高速鉄道も存在する。しかし、時間に正確で大量輸送に適した仕組みとして、その総合力では世界の中で新幹線の右に出るものはない。また、開通以来既に47年が経過しているが、鉄道側に問題がある死亡事故は発生していない。東日本大震災の際も早期地震検知システムによって、東北地方で旅客輸送中の27本の新幹線がすべて安全に停止したことは特筆すべきである。にもかかわらず、このようなすばらしい技術力の高さも原発事故の陰となり、国内外で十分に報道されていないのは誠に残念である。

新幹線がもたらす経済効果の大きさから、過去にその誘致を試みた地域は数多い。しかし、欲しいからといってどこにでも整備してもらえる性格のものではなく、そんな時代でもない。意思決定にあたっては社会的な費用対効果をきちんと考える仕組みが必要である。

筆者は縁あってそのための国の「鉄道プロジェクト評価手法マニュアル」の作成に参画する機会を得たが、本学ではシステム情報・学研究科（社会工学系）に所属する先生方がこのような交通プロジェクトの評価で多くの実績をあげている。

課題もまだある。航空機や自動車などに比べて、低炭素化という視点で環境性能がよいことはまだ過小評価されている。海外でも多くの国が高速鉄道の導入を考えているが、どのように日本で流れた情報について書こうと思う。

3月11日にマグニチュード9.0、最大震度7を記録した東北太平洋沖地震が発生した。震源の東北では大きな被害があり、震源から離れた関東周辺でも計画停電や商品やガソリンの品切れが起こり、住民の間で混乱が発生した。この時、情報源として役に立ったのがツイッターである。ツイッターを使って多くの人に、どこの店に商品が入荷したか、どこの施設で被災者の受け入れを行っているかといった情報を広めて震災後の情報源の1つとした。

「デマが流れて人々を混乱させる原因にもなった」との意見もあるのだが、私は、ツイッターは震災後の情報を早く集める方法の一つであると思う。ニュースで流れる情報は被災地の状況や列車の運行状況、原子力発電の状況といった「マクロ」の情報である。私どもの店が営業しているか、どこの店が計画停電で営業中止になったか、どこの商店・オフィスを帰宅困難者に開放するかなどの個人単位で活動している「ミクロのデータは集めにくい。もちろん、交通状況や被災状況などのマクロの情報も必要になるが、避難や日常の買い物をする際にはミクロの情報が必要である。私は、どの情報を欲しいかによってニュースとツイッターを使い分けることが上手い使い方だと思う。確かにツイッターにはデマも流れているが、上手く活用することによって自分の欲しい情報を正確に集めることができると思う。

## 友人と会うきっかけ作り

自戸顕二（国総4年）

携帯電話を見る時間が増えていく。最近ミクシィを始めたのだ。ツイッターもブログもやっていない私としてはこれが初のSNSだ。

はじめはミクシィ上のゲーム（まちつく）にはまった。しかし、私はのめり込むと止まらない性質があるので、すぐに止めた。これも交流の1つの形だろう回線生にマイミク（仲良し）が、課金しないと手に入らないアイテムもあるので、やめて良かったと思う。

今のところ私は新しい知り合いを増やすことにミクシィを使っていない。無数にあるコミュニティに参加することで自分と全く接点のない人物とも知り合えるのだが、コミュニティ内の膨大な参加人数を見るとどんな人が紛れているか分からないので遠慮している。

だから、私は友人同士の交流を楽しむために使っている。あまり話さなかった人とやりとりするのは良いのだが、やはり直接会って話す方がずっと楽しいし、実りも大きい。会う約束をするのに使うとか、そういうやりとりに適している。

今後、他のSNSは使わないだろう。あまり広げすぎると、それぞれのSNSで更新しなければならなくなるので、手間が掛かる。1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。全てのSNSで自分の書き込みが同期出来るのかもしれないが、そこまでやるのは面倒だ。それより携帯電話もあるのだから、これをもっと使ったほうがいい。何のために月に何千円も払っているのか分からない。

もっと手軽で、心が伝わるのは、なまで聞く「おはよう」の一言だ。これを読んでくれたあなたも、きっとそう感じるだろう。

## 顔を知らない親友との絆

原啓一郎（社学1年）

高校生の頃に自分のブログを始めてもう2年になるが、私はその場所に幾度となく助けられてきた。当時の私は人間関係にやや疲れてしまい、自分の思う事のほとんどを飲み込んでしまうような人間だった。その代わりに自身のブログを運営し、言いたいこと、思ったことを事細かに、毎日1500字を自分のページに綴ることで、蓄積されていく感情を処理していた。

当然ブログには読者がいる。そこまで数は多くなかったものの、私の意見をきちんと受け止めてくれる人がいて、私は顔も名前も知らない彼らとの交流を深めていった。文字だけの関係だろうと言われてしまえばそこまでだが、私にとって彼らは大切な友人だった。

確かに周りから見れば文字だけの希薄な関係で、そんな人達よりも実際の友人と付き合え、との言葉もあるだろう。けれど文字だけの関係だからこそ言えることがあって、それは向こうにとってもそうだった。オフラインの友人には言えないようなデリケートな悩みや本音を、私達は画面を通して語っていた。あの時間が無かったら間違いなく今の私は無い。

ブログの読者の1人と実際に会ったことがある。私のどろどろした悩みを親身になって聞いてくれた人と、前期入試の翌日に会って語っていた。あの時間は、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩に何度も言われたのは「ただ日本に住んでも、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。先輩によれば、留学生と英語でしか話さない日本人が多く出来るのは普通だが、日本語で話してくれる相手はめったにいないと言うことであった。また、日本人論によると、日本文化は特徴が多過ぎて、日本は他の人間と違うようであった。もちろん、外国人の社会統合及び難いのは当たり前のことであった。従って、日本に来る前に「私みたいな馬鹿な外人と友達になってくれる日本人はいるはずだし、話しかけたら日本語で話してくれるはず」と強く思った。

後輩に教えたいのは、私が来る前に聞いた話の反対である。頑張って日本語で話せば、聞いてくれる相手が見つかると。

（イギリス・日日3年）

## 留学生の目



イムジン・フランセス・クライトン・ライト

質問されるのはこうだ……どうして日本に来たのか、と。その答えは単純で、私の大学では日本語及び日本文化を学ぶ学生は皆留学しなければならないのである。それに対して、日本に来る頃は、日本語能力もかなり低く、家族と離れたくなく、自分の心には、日本に行く気があまりなかった。9カ月たったら、日本から離れたくなくなってしまって、また日本に住みたいと一生懸命思っている。それはつくばで会えた人々のおかげである。

日本に来る前の心配は、先生・先輩の話や授業のために読んだ本の結果であった。先生と先輩に何度も言われたのは「ただ日本に住んでも、日本語が上達するとは限らない。むしろ、日本語が手に入ることも多い」ということだ。

ツイッターなどのSNSの流行で、こういった関係が広がるかもしれないが、ツイッターだけでは難しいだろう。確かに十人十色で個性的な人が集まるとはいえ、たった140文字では厳しいものがあると思う。合える人とは、きっとこれからも色々な形で関わっていくのだろう。SNSというツールがある現代だからこそ、人間関係の形を、1人でも多くの人に知って欲しいと思う。

## 会話続いたときの喜び




## 次号のテーマは「道」です

連絡先
TEL　029・853・6699
e-mail　shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

今月のテーマ



SNSと私

つくば芸術祭

# 芸術・文化系サークルが発表

## 芸術を通して地域と交流
### 若者の力を震災後の活力に

本学の芸術・文化系サークルが日頃の成果を発表するつくば芸術祭（主催・芸術系サークル連合会）が、5月3～5日、つくばセンター周辺地区（つくば市吾妻）で開催された。

このイベントは、芸術・文化系サークルの発表の場であると共に、地域の人々との交流を目的として毎年行われている。今年は震災の影響で開催が危ぶまれたが、実行委員らの努力により開催にこぎつけた。

バンド演奏に多くの観客が聞き入った

市民活動センターでは3日間楽器体験、3、4日にはアルスホールで音楽や落語の公演が行われるなど3日間を通し芸術・文化に関わる多くのサークルがその魅力を存分に発揮した。

最終日の5日には、アイアイモール前モニュメントプラザでときめき太鼓塾やJAZZ愛好会など6団体のライブが行われた。さくら民家園では邦楽部による琴の演奏会と茶道部和敬静寂社によるお茶会が行われた。お茶会に訪れたイランからの女子留学生は「日本の文化は不思議で面白い。お辞儀などから礼儀正しさが伝わってきた」と感想を語った。

実行委員長の宮川景次さん（生資3年）は「震災後初めての本学のイベントということで、若者のパワーで元気になってほしいという気持ちを込めて頑張った。多くの人が来てくれてよかった」と話した。

## バイオeカフェ
## ホルモンと愛の関係語る
### 活発な意見交換も

生物学類と生命環境科学研究科が主催するバイオeカフェが5月17日に本学総合交流会館の多目的ホールで開催された。51回目となる今回は、小川圏子教授（感性）を講師に招き「ホルモンで変わる脳と絆～恋はドーパミンでは愛は…？」と題し、ホルモンによって生まれる性差や行動の違いについて講演を行った。

小川教授は講演の前半で、アンドロゲンというホルモンの働きを紹介。生まれたての哺乳類は雌の状態に近いが、精巣から分泌されるアンドロゲンによって雄性化すると性差が生まれるメカニズムを説明した。

また後半では、動物や人間の子育てなどの社会的行動はオキシトシンというホルモンに影響を受けるという研究について解説。オキシトシンが正常に働かないマウスは子育てを上手に出来ないという実験を例に出し、人間の親子や男女の社会的関係にもこのホルモンが影響していると話した。

講義の合間には参加者同士が意見や感想を交換するテーブルトークの時間が設けられ、多くの参加者が積極的な議論を交わした。「恋はドーパミン、では愛は一体何なのか」という質問に対し、小川教授は「まさしく愛はオキシトシン」と答え、会場の笑いを誘った。

小川教授は「これまで3回バイオeカフェで講演を行ったが、今回は参加者からの積極的な意見交換もあり、とても有意義な講演に出来たと思う」と語った。

ホルモンについて熱心に語る小川教授

次回のバイオeカフェは今月14日、つくばセンターのつくばサイエンス・インフォメーションセンターで行われる。問い合わせ＝mionoo@sakura.cc.tsukuba.ac.jp（小野）

## 石井コレクション展示
## 3カ国98点の陶器並ぶ
### 本学生主体で開催

本学所蔵の陶磁器を展示する企画展「東洋陶磁の華」が県陶芸美術館（笠間市）で開催されている。展示品は図書館流通センターの石井昭会長から本学に寄贈された「石井コレクション」計101点のうち98点で12世紀以降に日本、中国、朝鮮で製造された陶磁器だ。

企画展の特徴は本学芸術専門学群や人間総合科学研究科芸術専攻の学生が全体的な流れを企画したこと。ガイドブックや音声ガイドの制作に携わり、来場者に作品の解説をするギャラリートークも行った。企画展を担当する学芸員の山下宗彦さんは「私たちはアドバイスをしただけで、骨の部分は学生が作った。良く出来ていると思う」と話す。

先月28日のギャラリートークは武藤かおりさん（芸専3年）が案内役を務めた。10人以上が聞き入る中、作品を囲み「朝鮮は儒教国なのでシンプルな陶器が多い」などと解説した。来場者は身を乗り出して作品の細部までじっくり観察していた。土浦市の女性は「知識を深め、新しい発見をすることが出来て良かった」と感想を述べた。武藤さんは「緊張して、頭に入れたことの半分しか話せなかった。邪魔にならない立ち位置や次の作品に移るタイミングを考えるのに苦労した。出来ればもう一度やりたい」と目を細めた。

個人コレクションの展示会は好き嫌いが分かれやすいが、今回は3カ国のさまざまな陶器が揃い、自分の好みに合う作品に出会えるかもしれない。ギャラリートークや音声ガイドを利用すれば、知識が無くても陶器への理解を深められる。山下さんは「石井コレクションを、まとめて見る機会はなかなか無い。美術館は作品が最も美しく生える場所なので、筑波大の皆さんにもぜひ来館してほしい」と呼びかける。

# 原点 GEN-TEN

## イギリスで気づいた上野の魅力
### 研究を通じ地域に関わる

五十嵐泰正

私は現在、都市社会学を専門に研究を行っています。なかでも、東京の上野を研究対象としており、近いうちに著作にまとめたいと考えています。親しい人が住んでいたり、上野の近くの中高に通っていたりしたので、上野は昔から縁がある街でした。高校生の頃には、ちょうどイラン人が上野公園にたくさんで鮮烈な印象があったので、この街の外国人の問題を考えてみようかと漠然と思いつきました。しかし、上野を研究対象にしようとはっきりと考えるようになった「原点」は、1999年からのイギリス留学です。

留学先のバーミンガム大学でのゼミで、上野について発表する機会がありました。東京の主要な街は、たいていロンドンのどこかと似ていて、「お台場はドックランズみたいなところ」とか言えば、大体通じます。でも、上野のことはうまく描写出来ずにいたところ、各国から来ている学生たちに「そんな街は世界中どこにも存在しないよ！」と言われたんです。

上野はもともと東北本線などの起点という「北の玄関口」という側面を持っていました。また、上野公園内には動物園や国立美術館・博物館といった文化施設があります。イラン人やホームレスが多くいたりした時期があり、都市のダークサイド的な面も持っています。一方で、アメ横のような下町の商店街としてのイメージがあると同時に、焼き肉店が多く、キムチ横町に見られるように、在日コリアンが東京で最も早い時期からコミュニティを作った街でもあります。更に、上野公園は徳川家の菩提寺である寛永寺から始まっており、その門前町として栄えた上野は東京内でも特に歴史の古い場所です。

上野は、東京の中でも古いエリアがグローバル化の最前線になっているという歴史的重層性、美術館に来る人からフィリピンパブに来る人までという階層的多様性、そしてそれらすべてがウォーキングディスタンスにあります。都市の定義に「多くの人々が高密度に住んでおり、異質性が高い」というのがありますが、身近な上野こそがまさに「都市」なんだと気付かされたんです。それで、「ここを真剣に研究したら面白いんじゃないか」と思い始めました。

帰国後、少しずつ上野の調査を始め、上野商店街連合会などの会合にも定期的に参加し始めました。そこで出会った人にインタビューをしたり、キャラクター作りの企画に携わったりするなかで、社会学でいう参与観察を行っています。また「都営戦隊大江戸マン」という戦隊キャラクターの一員として、動物園などでイベントをしたこともあります。

私はもともと、一つのことに囚われず、色々な人生を経験してみたいと思っていました。現在は研究者という立場にありますが、さまざまな社会活動に関わることのできる分野なので、今もその可能性が多少は追求できているのかなと思います。（構成＝根津彩香）

●●●●●●●●●●

**いがらし・やすまさ**
1974年生まれ。人文社会科学研究科国際公共政策専攻教授。専門は都市社会学、国際移動論。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。

東京・上野の商店街で社会学的な調査に取り組むかたわら、34年間暮らしてきた千葉県・柏でまちづくり団体にも関わる。近著に、『越境する労働と〈移民〉』（編著、大月書店）、『多文化社会の〈文化〉を問う』（共著、青弓社）など。

鄭 仁豪（チョン インホ）

書棚に無作為に積んであった何冊かの本が地震の揺れで床に落ちた。拾い上げた本の中に、10年程前に面白いタイトルだなと思い手にとった本があった。後に聞いた話だが、この本は1998年発売以来、米国だけで200万部以上、日本でも170万部が売れる程、世界的なベストセラーらしい。著者スペンサー・ジョンソンは、米国の南カリフォルニア大学で心理学を学び、アイルランドの王立外科大学で学んだ医者であるが、現在はこの種のベストセラーを量産する作家と紹介される。拾い上げた本の中に、10年程前に面白いタイトルだなと思い手にとった本があった。後に聞いた話だが、この本は1998年発売以来、米国だけで200万部以上、日本でも170万部が売れる程、世界的なベストセラーらしい。著者スペンサー・ジョンソンは、米国の南カリフォルニア大学で心理学を学び、アイルランドの王立外科大学で学んだ医者であるが、現在はこの種のベストセラーを量産する作家と紹介される。

## 多難な社会を生きる鍵に
### チーズはどこへ消えた？

**スペンサー・ジョンソン 著／門田美鈴 訳**

本書の主な内容は、家庭や職場など人間関係で悩んでいる人の生活の場である迷路の中で、職業、お金、健康、人間関係、家、自由、希望などの各自の価値であるチーズを探し求める人間の行動特性に例えた2匹のネズミと2人の小人の話である。常に変化するチーズに対する登場人物の対処行動を通じ、多難な世の中を生きるための積極的な考え方を教示する本である。

この本は、考え方や行動を押し付ける傾向のある自己開発書の側面も有り、最初は私の中にそれほど大きなインパクトはなかったが、今回は、運命的な出会いもあり、この本がなぜベストセラーなのかを探りながら改めて読んでみた。今時の本の売れ行きの決め手はよく分からないが、タイトルの面白さや表紙のもなげなことに翻弄されるのが人生である。砕かれた夢のかけらを拾い集め、人はまた顔を上げる。……人生談という現実性を織り交ぜ、読者も自分自身のチーズ探しや対処行動を考えさせる著者の巧みな意図など工夫が随所で目につく。それ以上に、新しいチーズを探し求める過程で見られる小人「ホー」の人間らしい苦悩と勇気に対する回調や自分の殻から抜け出られない小人「ヘム」に対する憐憫の気持ちに気づかないではいられない。

5月31日版朝日新聞朝刊天声人語欄に次のことばが書いてあった。「自ら切り開こうと思えども、どうにもならぬことに翻弄されるのが人生である。砕かれた夢のかけらを拾い集め、人はまた顔を上げる。……人生談という現実性を織り交ぜ、読者も自分自身のチーズ探しや対処行動を考えさせる著者の巧みな意図など工夫が随所で目

助を助けて変わる人生もあるこの本がベストセラーなのかを探りながら改めて読んでみた。今時の本の売れ行きの決め手はよく分からないが、タイトルの面白さや表紙のもなげなことに翻弄されるのが人生である。砕かれた夢のかけらを拾い集め、人はまた顔を上げる。……人生談という現実性を織り交ぜ、読者も自分自身のチーズ探しや対処行動を考えさせる著者の巧みな意図など工夫が随所で目につく。それ以上に、新しいチーズを探し求める過程で見られる小人「ホー」の人間らしい苦悩と勇気に対する回調や自分の殻から抜け出られない小人「ヘム」に対する憐憫の気持ちに気づかないではいられない。

5月31日版朝日新聞朝刊天声人語欄に次のことばが書いてあった。「自ら切り開こうと思えども、どうにもならぬことに翻弄されるのが人生である。砕かれた夢のかけらを拾い集め、人はまた顔を上げる。……人生談という現実性を織り交ぜ、読者も自分自身の人間の姿と他愛をもつ人の姿であろう。落ち込んだ時にも一度読んでみたい本である。『扶桑社・893円』

（障害・准教授）

～インカレサークル・学生団体特集～

# 「つくばの外」を見てみよう！

「インカレサークル」「学生団体」とは、どんなものかご存知だろうか。想像がつく人は多くないと思われる。ほとんどの本学生にとって、まさに「関係ない」と感じる世界かもしれない。しかし今回は、このようなサークル・団体からつながっていく「つくばの外」の世界を、さまざまな角度からのぞいてみた。（堀木陽子＝人文学類、梅野なぎさ＝社会学類、倉沢美紀＝国際総合学類、森田聡＝社会工学類）

## 概論

さて、突然「インカレサークル」「学生団体」という言葉を使ったが、その一般的に言うところの意味を知っているだろうか。まずは、それらの団体の形態と特徴を解説しよう。

インカレサークルは、サークルとしての本部、例えば部室などがどこかの大学にあるが、他大学の学生も加入することが出来るもの、特に表記しないものなどさまざまだ。

インカレサークルも学生団体や NPO 法人などを冠するものから10人程度のものまでさまざまで、活動内容もまた多様である。いくつもの大学から学生が参加している点を生かし、大きなイベントを運営したり、特定の問題に対するプロジェクトを行ったりしている。団体ごとに雰囲気が違い、それぞれ個性が強いのも特徴だ。

ちなみに、本学ではいわゆる普通のサークルを「公認学生団体」「一般学生団体」と呼ぶが、それらは一般的な「学生団体」の用法とは大きく異なるので、他大生と会話する際には注意が必要である。

ここで、学生団体・インカレサークルの例として、今回取材した団体を紹介したい。

■KOOGA

隔週土日に千葉県炭谷地区の大沢集落に行き、地域の人々と同じ目線に立ち、集落の活性化を目指しさまざまな取り組みをしている。農作業の手伝いや土砂の撤去などをはじめ、農作物の加工・販売も行っている。ホームページ＝http://kodomokokkai.web.fc2.com/、問い合わせ＝info@kodomokokkai.com

■子ども国会実行委員会

毎年8月に開催する「子ども国会」の企画・運営をしている。ミーティングは月に2～4回、都内にある事務所で行う。メンバーは高校生と大学生合わせて15人ほどで、大学生は慶應義塾大学、日本女子大学、国際基督教大学などから来ている。ホームページ＝http://www.fc2.com/、問い合わせ＝kooga.oosawa@gmail.com

■わかもの科プロジェクト

高校生にさまざまなプログラムを提供することを通して、身の回りや社会にある様々な問題を、高校生たちが自分たちで考えるきっかけを作っている。高校での授業や、休日に高校生を集めて行うイベントなど、さまざまな形態で考える場を提供している。メンバーは東京大学、早稲田大学などから大学院生と大学生計15人ほどで、ミーティングは週1回以上、都内で行われる。代表の古田雄一さん（東京大学大学院1年）は「高校教育をよりよいものにしたい。それが僕たちの思いです。興味のある方は、ぜひ気軽に連絡してください！」と話す。ホームページ＝http://www.wakamonoka.net/、問い合わせ＝info@wakamonoka.net

## 団体紹介

## 学生団体に行ってみた

### 責任を負う実感

本紙の新米記者が、学生団体のミーティングを見学した。インカレサークルや学生団体を見るのはもちろん初めて。ここでは彼女の手記を通して学生団体の雰囲気を紹介したい。

◇

5月22日、子ども国会実行委員会の事務所で和やかな雰囲気の中ミーティングが行われた。

子ども国会実行委員会は、「子ども国会」という、中高生が社会問題について討論し、その意見をまとめて宣言書という形でNGOや各省庁などの機関に届けるというイベントを開催している学生団体だ。（団体紹介に詳細）

この団体の特色は、メンバーとしてイベントの運営を中高生も担当していること。イベントの成功という1つの目標に向けて、中高生と大学生が学生の枠を越え、活発に意見を出し合う姿は新鮮だった。私も次の子ども国会の討論テーマ決めに参加したが、中高生の意識の高さに驚き、普段ではなかなか得られない刺激を受けた。

活動について、メンバーの小林望海さん（慶應義塾大1年）は「企業への電話を通じて実社会に触れることが出来、自分がやらなければ団体が運営できないため、責任を負っているという実感が得られる」と話す。馬場裕也さん（早稲田大学本庄高2年）は「学校からやらされたというのではなく、自分でやったという達成感が感じられる」とやりがいを話した。

この団体の人達は大学や高校という枠組みをほとんど意識しないそうだ。メンバーが同じ大学や高校でなくとも新しい発見があるかもしれない。

普段つくばの外に出かけて行くのは難しいが、土日や長期休暇を利用するという方法もある。つくばの外には「女子は気が強い？」ある企業の面接で一緒になった人の目つきが怖かった」という声も……。

今回調査した他大学の学生は、知り合いに本学生がいる人から全くいない人までさまざまである。統計的な理論に基づく調査ではないが、彼らの持っているイメージ、的確なものから驚くようなものまでバラエティに富んだ結果なのではないだろうか。

「第７回子ども国会」の様子

## 本学生のイメージ

他大学の学生に聞いた！

### 本学生のイメージ

- 教員志望の人が多そう
- 千葉県と茨城県の人が多そう
- 理系が多そう
- いい意味で、普通
- いい人が多そう
- いそうでいない
- ツイッターにもいない
- 個々人が自由に活動してそう
- のびのびとしている

...etc

左に掲載しているのは、他大学の学生に聞いた、本学生のイメージである。中には「女子は気が強い？」ある企業の面接で一緒になった人の目つきが怖かった」

## 話を聞いた経験者の紹介

○石田航太郎（社工2年）

1年生の始めに、東京のイベントサークル「アーク」にメンバーとして参加。クラブイベントの運営や、渋谷のゴミ拾いなどを行った。現在は本学に在籍しながら、㈱クロファクトリーの社員として活動している。

○石原祥子（生資4年）

1年生の頃から、横浜市立大のインカレサークル「Edu ken」（現在は一般社団法人化）にメンバーとして参加。主に教育関係のフリーペーパー「はだしの教室」の編集などを活躍。現在もOGとして記事の投稿などを行っている。

○木下拓郎（生資4年）

「KOOGA」の元メンバーで、農業系サークルのネットワーク団体「AGC」（解散のため現在は存在しない）の元代表。

○皆川孝弘（生環1年）

KOOGA初代代表。國學院大學でムラのこしサークルとしてのKOOGAをスタートさせ、現在は本学大学院に在籍しながら、サポーターとして活動に参加している。

○宮木祐任（シス情1年）

3年生の終わり頃からKOOGAにメンバーとして参加。学群時代に都市計画を専攻しており、活動を通し限界集落の活性化の実際を学ぶ。サポーターとしてKOOGAの活動を支えている。

○森田聡（社工3年）

2009年9月から学生団体「子ども国会実行委員会」に所属し、昨年1月から代表を務める。最近ではでは「わかもの科プロジェクト」の高校で授業を行うプロジェクトにも参加している。

## 経験者に聞いてみた

実際にインカレサークルや学生団体に所属している、もしくはしていた本学生に、活動の魅力を聞きました。

◇

――まず、どういったきっかけでそれぞれの団体に入ったのか教えて下さい。

**皆川さん**

農林水産省の「田舎で働き隊！」という事業が全国で行われて、現在活動を行っている地域の方と知り合いました。事業後も継続的に地域と関わりたいという気持ちから、仲間を募って「KOOGA」としての活動を始めました。

**木下さん**

僕は、1年生の時に大学院のゼミに出ていたんです。組織論のゼミだったんですが、そこで知り合った先輩に、AGCの初代代表を紹介していただいて、そこからKOOGAも一緒にやるようになりました。

**石原さん**

私は1年生の時に入ったサークルで教育の面白さに気付いて。ミクシィなどを通じてそのことを知った友達の知り合いが、教育についてのフリーペーパーを作らないかと誘ってくれて、Edu ken に入ることになりました。

**宮木さん**

僕は、以前KOOGAメンバーの1人と宿舎のフロアが同じだったんです。3年生の終わり頃久しぶりに2人で夕食を食べた時「こういう活動をしてるんだけど遊びに来ない？」と誘われたのがきっかけです。

**石田さん**

高校時代の友達が新しくサークルを立ち上げて、それで誘われてアークに入ることになりました。クラブイベントをやっているような団体なんですが、人々の、そういった場でしか出せない一面を垣間見ることが出来るのが面白くて、運営をするようになりました。

左から木下さん、石原さん、石田さん

### 一番は価値観の変化

**森田さん**

僕は大学入って、スポーツ委員会や大学新聞には入ってたけど、正直暇だなと思っていて。そんな時、高校時代の知り合いに「子ども国会実行委員会に入ってほしい」と頼まれたのがきっかけです。

**石原さん**

筑波大に入って強く感じたのは、一般社団法人化、NPO法人化などの流れ。学群時代に都市計画を専攻しており、活動を通し限界集落の活性化の実際を学ぶ。サポーターとしてKOOGAの活動を支えている。

○森田聡（社工3年）

2009年9月から学生団体「子ども国会実行委員会」に所属し、昨年1月から代表を務める。最近ではでは「わかもの科プロジェクト」の高校で授業を行うプロジェクトにも参加している。

◇◇◇

# 今までつくばでなかった “新たな発見”があるかも！？

## 入りたいと思ったら

## 情報を集めよう

ここまで読んで、インカレサークルや学生団体に興味を持った人もいるかもしれない。ここでは、これらの団体に入る前に確認しておきたいポイントを挙げる。

まずはその団体が何を目的としているのか、その目的を果たすことが出来るのか、よく見極める必要がある。場合によっては、他の団体の人に聞いてみるのもいいだろう。団体同士、協力関係にあることは少なくなく、そうでなくても大きい団体であれば、情報はさまざまな場所で共有されている。また後述する内容にも関わってくるが、良心的な団体であれば、無理やりあなたを囲い込むことはしないし、むしろあなたが加入したいと思う団体に所属することを心から望んでいる。

その上で、その団体がいわゆる「怪しい団体」ではないかのチェックが必要だ。しかし、団体の大きさや歴史といった要素は、ほとんど参考にならない。まずは見学者を無理やり加入させようとしていないかをチェックしよう。先ほどと同じように、他団体の人から情報を入手するのも一つの手だ。また、会計報告書をもらい、収入源に不審な点はないか、支出はあれは、情報はさまざまな適切かを確認するのもいいかもしれない。

ここまで確認出来たら、最後は「あなたにとってよい環境であるか」である。仕事に真面目に取り組めることや楽しく盛り上がれる仲間がいることなど、評価の項目は人それぞれだと思うが、自分にとってよい環境であることは、その団体で活動していく上で一番重要だ。

もし、インカレサークルや学生団体に興味を持ってもらえたなら、以上の項目に気を付けながら、ぜひ「つくばの外」も楽しんでほしい。

むろん、当然のことではあるが、インカレサークルや学生団体に熱中し過ぎて、学業がおろそかになることのないように……。

## 視点

### 「やりたいこと」が大事 自分の「想い」を大切に

正直に言えば、本学生がインカレサークルや学生団体に所属するには、他大生よりハードルが高いのは事実である。それらの団体が活動している場所にもよるが、本学生が多く住むつくばからの移動には時間がかかる上、交通費もかさむ。これが、本学生がつくばの外に出る上でネックになっているのかもしれない。

しかし、移動時間や交通費の問題を抱えてでも、それらの団体に所属している人が多くいるのもまた事実だ。

ここで強調しておきたいのは、決して学内のサークルとインカレサークル・学生団体の間に、優劣はないということだ。それぞれが、それぞれの目的意識に基づいて活動しているのだから、互いに良さを生かしていくのが大事だと考えている。ただ、今まで学外の団体を知る機会がほとんどなかったと考えられるため、今回このような形で特集させていただいた。

私、そして今回の座談会の参加者の願いとしては、「学内」「学外」のくくりにとらわれず、さまざまな団体を見て、自分の目的意識にあったところを見つけてほしい。今回の特集が、読者の皆様がより輝ける団体を見つける一助になれば、それ以上の喜びはない。（森田）

## 先端科学 HELLO!

### カドミウム浄化技術

# 鉄粉で食の安全守る 環境と社会に配慮し研究

昨年2月、コメなどに残留するカドミウム量の規制が強化された。玄米1キロにつきppmだった国内基準がより厳格な0・4ppmへ移行した。食の安全が叫ばれる中で消費者らの期待に応えるものだ。

この規制内容を受け、中谷清治准教授（化学専攻）と環境ベンチャーのCORDA（つくば市千現）が連携。水田土壌に含まれるカドミウムを、特殊な鉄粉を使って除去する技術を開発した。実証実験では、玄米のカドミウム吸収を、未対策の水田と比べて30―40％以上減少させることに成功している。

鉄粉は、神戸製鋼所が開発した環境浄化鉄粉「エコメル」を使用。まず、微細な穴が無数に開いた直径15センチほどの袋に、この「魔法の粉」を入れ、水田に配置し、溶質剤を散布する。溶質剤の成分については守秘義務がある。不用意な利用で、カドミウムによる環境の2次汚染に繋がる可能性があるためだ。

溶質剤でイオン化（水中に溶出）し、穴を通して袋に入ったカドミウムは、イオン化傾向の差により（酸化還元反応により）還元出（$Cd^{2+} + Fe^{0} \rightarrow Fe^{2+} + Cd$（↓は上付き））。結晶化、不溶化したカドミウムはエコメルに吸着される。袋に開いた穴はマイクロメートル単位のもので、カドミウムを吸着したエコメルを外に出さない仕組みだ。この袋を回収することでカドミウムを浄化できる。エコメルを用いた反応では、酸化還元反応を促進する反応が働くと考えられるという。

通常、吸着にかかる時間は2―3週間。収穫から田植えまでの時期に浄化を行い、効果は施行期間に比例する。

従来カドミウムを除去するためには、大型重機を用いた土の入れ替えや土壌洗浄など、200―300万円程度の高額の費用を要する大規模な作業を行う必要があった。

今回開発した技術は、農業者自身で一連の作業を行うことが出来るので、費用を市場の1アールあたり20―30万円と、10分の1以下に抑えることが可能になる。

ただし「従来の方法に比べて、格段に効率的である、というわけではない」と中谷准教授は話す。

「飽くまでも主眼が置かれたのは、作業が大規模で行程が煩雑でなく、何よりも安価で農家が導入しやすいということ。追求するのは単純な合理性ではない。現場を考え、現場に密着した研究が求められている。

また、カドミウムは人体に有害な物質であるだけに、農家と一体で行う研究には風評被害の問題がついてまわる。そのため農家には、研究に関する問い合わせはJAや県庁を通してもらう。研究室の学生にも実験の報告等では県の名前を伏せるように指導する。環境や社会に配慮し研究を行なう、研究者として必要な倫理観が垣間見える。

理学系の基礎的研究を続けてきた中谷准教授は、「粒子に物質が吸脱着する過程を土壌中の問題に応用できないか」と数年前に研究を始めた。実家が米農家で苦労を知るだけに、研究にも力が入る。これからの研究の展望について聞くと「どんな性質の水田でも使えるように、研究を続けていく」と意気込んだ。

研究については海外からの問い合わせもあるという。カドミウムによる水質汚染が問題になっている地域で、日本の技術が役立てられる日も近いのかもしれない。（本紙・小川玲＝社会学類）

●●●●●●●●●●

■各国の食物中カドミウム含有基準値

○台湾＝0・$ppm$
○中国・韓国・EU＝0・2$ppm$
○オーストラリア・タイ＝0・$ppm$

## 交流学生からの手紙

### 独立行政法人 国際協力機構（JICA）

# 山崎潤さん

国際協力の事に関わり10年近くになります。この仕事は大まかには、現地で農業などの技術を教えたりする「プレーヤー」と、現地事務所や本部で案件形成や事業管理を行う「プロデューサー」の役割があり、私は後者の役回りを演じることが多いです。現在は東京の本部で旧ソ連諸国や東南アジアの農業・農村開発分野の事業に携わり、現場とデスクの間を行き来していますが、複数のプロジェクトを同時に担当するので常に「現場」にいるというわけにはいかず、自分が途上国の役に立っているという実感は必ずしも強くはありません。しかし、現地の人の期待の声を聞き、なんとかしたいと使命感に燃えたり、事業の成果を見て感動したり、苦労した青年海外協力隊が離任時に空港で涙する姿を見て目頭が熱くなる、といった体験を度々させてもらえます。これらの積み重ねが私の仕事の原動力になっています。

筑波大学在学中は、学園祭実行委員会の活動に関わる傍ら、バックパックで途上国を旅行してばかりしていました。学園祭の活動は現在のプロジェクトを動かすという仕事の原体験にもなり、その時の友人たちは、今では事以外の世界を見せてくれる貴重な存在になっています。一つの目標に向かってグループで考え、「本番」を迎えるというサイクルを学生のうちに何回か経験したことは、社会に出るよい準備になりました。一方、発展途上国を旅することは、宿舎と学校を自転車で単純往復する筑波の生活と対照的で刺激がありました。そのときに持った問題意識が、私にとっては今の仕事を希望する契機になっています。しかし、今思うと、大部分は流れる景色を眺めていただけなのに視野が広がったという思い上がりがありました。卒業後、企業やNGO、そして今の組織での仕事で、カナダ・ウズベキスタン・カンボジアなどに長期滞在し、オランダに留学する機会もありました。仕事でも学位取得でも、目的ある滞在では、見えるものや感じることがこんなにも違うものかと、閣僚に旅していた大学時代をいつも振り返ります。

筑波大学は閉鎖的だと言われますが、海外にはこのような環境の機関は多くあり、研究や部活など二つのことに集中するには非常に適した環境です。しかし、学生時代は外に出れば、非常に低いリスクで様々なことを経験できます。少しでも目的があれば大きな意味を持ってくると思います。筑波を拠点に1度は外に大きく出て、すばらしい学生生活を送ってください。（平成11年国際関係学類卒業）

# もっと広い世界へ

## 視野を広げ、人生を豊かに

熱心に語る皆川さん（左）と宮木さん

たのが「優等生が多い」ということ。授業でも発言する人が少なくて、自分はそんな空気が嫌で発言してたんですが、凄く浮いてて（笑）。そんな中Edukenに入ってどんどん新しいことをやっていく人と出会いました。ここでは皆批判精神みたいなものを持っていて、自分が発信したことについて、否定的な意見もちゃん言ってくれることがうれしかったですね。

**石田さん** 僕は一番に思うのは視野が広がったこと。でも、だからといって、つくばの外が良いとか中が良いとかは別にどうでもよくて。要は、どこに自分の価値をおくかやりたいことを達成出来るかは分からない。視野が広がって選択肢が広がれば、より豊かな人生になるんじゃないかと思います。

**森田さん** そうなんですよね。つくばの中にずっといて、充実してると感じている人なら全然良いと思うんですけど、現状に満足していないなら思いきって外に出てみれば良いと思います。

**宮木さん** 外に出れば、まったく新しい人に会えますよね。あと、学内だけのサークルは内向きというか、「爆発」しない。インカレは皆モチベーションが高くて、すごく自由で開けてる。

**皆川さん** そうそう。だからどこの大学とかどういう人とか、垣根や偏見みたいなものが全然無い。筑波大の人は内向きだっていうけど、実際会ってみると、東大の人も、他の私大の人も、皆全然違わない。そういう意味で、普通のサークルより気楽に入って行けると思う。

**森田さん** つくばからはつくばエクスプレスですぐ東京に行けるのに、なかなか出ようとしないのは勿体無い。視野を広げるためにも、つくばの外に目を向けてみるのもいいのではないかと思います。

**皆川さん** 僕は、外に出ないと選択肢を持っても良いと思います。少ない選択肢の中で、自分がやりたいことを達成出来るかは分からない。視野が広がって選択肢が広がれば、より豊かな人生になるんじゃないかと思います。

**森田さん** そうなんですよね。つくばの中にずっといて、充実してると感じている人なら全然良いと思うんですけど、現状に満足していないなら思いきって外に出てみれば良いと思います。

**宮木さん** 外に出れば、まったく新しい人に会えますよね。あと、学内だけのサークルは内向きというか、「爆発」しない。インカレは皆モチベーションが高くて、すごく自由で開けてる。

**皆川さん** そうそう。だからどこの大学とかどういう人とか、垣根や偏見みたいなものが全然無い。筑波大の人は内向きだっていうけど、実際会ってみると、東大の人も、他の私大の人も、皆全然違わない。そういう意味で、普通のサークルより気楽に入って行けると思う。

**森田さん** つくばからはつくばエクスプレスですぐ東京に行けるのに、なかなか出ようとしないのは勿体無い。視野を広げるためにも、つくばの外に目を向けてみるのもいいのではないかと思います。

第90回関東学生陸上競技対抗選手権大会

# 女子総合で19連覇果たす

## 男子　惜しくも総合3位
## 走り高跳で戸邉が2連覇

陸上

第90回関東学生陸上競技対校選手権大会が先月14日―22日の2週に渡って、国立競技場（東京・新宿区）で行われた。本学は女子が19年連続21回目の総合優勝を成し遂げ、来年の20年連続優勝にリーチをかけた。男子は惜しくも3位だった。

女子は、大会2日目、佐野由実（体専4年）と中野瞳（同3年）が女子100㍍で1、2フィニッシュ。三段跳の前田和香（同）が12㍍86で快勝、ハンマー投げの大﨑かな（同1年）が1年生ながら49㍍39で優勝するなど、選手層の厚さを示した。1週目終了の時点で、総合1位をキープした。

2週目には、中野が走幅跳において6㍍18で優勝したほか、最終日に行われた4×100㍍リレー決勝で、中野、立山紀恵（同3年）、佐野、阿部瑛美（同4年）のチームが底力を見せ、45秒73で有終の美を飾った。

トラック競技の得点、優勝種目数は中央大に及ばなかったものの、フィールド競技では2位の中央大を大きく引き離し、総合得点では145・5点で、2位の中央大に12・5点差をつけて総合優勝を勝ちとった。

男子は大会初日、昨年の日本インカレで優勝した大室秀樹（同3年）が110㍍Hを14秒14で制した。昨年の同大会で優勝した走り高跳の戸邉直人（同2年）も安定した強さを見せ、2㍍19で2連覇を達成。2日目には十種競技で高橋尚（同4年）が7035点で優勝し、幸先のよいスタートを切った。1週目終了の時点で、対校成績3位につけた。

2週目になると、3日目に走幅跳の鍋村鴻汰（同1年）が7㍍70で優勝し、総合得点1位に躍り出た。最終日に800㍍の中村康宏（同3年）が1分52秒68で2位と健闘したが、総合得点は106・5点にとどまり、3位で大会終了を迎えた。フィールド競技の得点、優勝種目数は1位に輝いた。

大山圭悟監督（体育・講師）は「東日本大震災の影響で、3月になかなかトレーニングできなかったが、みんなで積み重ねた底力を発揮した大会だった。得意種目はもちろん、苦手種目でも活躍できた人も多かった。9月に行われる日本インカレでは、アベック優勝を狙っているので、躍進に期待したい」と話した。

その他の結果は以下の通り。【女子】▽800㍍・茉莉（同4年）＝3位（12分58）▽やり投・柴奏子（同3年）＝3位（50秒94）▽円盤投・小野真弘（同）＝2位（49㍍65）▽前田奎（同3年）＝3位（48㍍85）▽走高跳・谷口まどか（同3年）＝3位（1㍍65）、金井瞳（同2年）＝3位（1㍍65）▽円盤投・高橋亜弓（同4年）＝2位（47㍍66）、日下望美（同3年）＝3位（50秒94）▽円盤投・小野真弘（同）＝2位（49㍍65）▽前田奎（同3年）＝3位（48㍍85）▽走高跳・松下翔一（同4年）＝2位（1㍍65）▽やり投・眞里奈健司（同2年）＝3位（72㍍61）▽400㍍H・渡邉諒（同4年）＝3位（50秒94）▽円盤投・小野真弘（同）＝2位（49㍍65）▽前田奎（同3年）＝3位（48㍍85）▽走高跳・松下翔一（同4年）＝2位（1㍍65）▽やり投・眞里奈健司（同2年）＝3位（72㍍61）▽400㍍H・渡邉諒（同4年）＝3位（50秒94）▽円盤投・小野真弘（同）＝2位（49㍍65）▽前田奎（同3年）＝3位（51㍍15）【男子】▽三段跳・松下翔一（同4年）＝2位（16㍍05）▽やり投・眞里奈健司（同2年）＝3位（72㍍61）▽400㍍H・渡邉諒（同4年）＝3位（50秒94）▽円盤投・小野真弘（同）＝2位（49㍍65）▽前田奎（同3年）＝3位（48㍍85）

（左）女子100㍍で優勝の佐野（写真中央）と2位の中野（写真左）
（右）男子110㍍Hで優勝の大室　（写真提供＝筑波大学スポーツアソシエーション）

関東大学バスケットボール選手権

## 新ユニフォームを披露
## 男子　大会は4位に終わる

バスケット

第46回筑波大学・日本体育大学定期戦が先月1日に代々木第二体育館で行われ、本学バスケットボール部の新ユニフォームが披露された。

昨年7月、筑波大学ブランディングの一環として本学運動部のユニフォームがブルーのスクールカラーで統一された。今までバスケットボール部のユニフォームは緑色に白のラインが入ったデザインだったが、新しいユニフォームは鮮やかな明るい青に濃い青色でラインが入り、統一された校章の「五三の桐」やロゴマークがあしらわれている。

披露された新ユニフォーム（写真提供＝筑波大学スポーツアソシエーション）

日筑定期戦の結果は、男子は81―93、女子は73―69で敗れ、3勝4敗で4位となった。

大高敏弘監督（体育・教授）は「新しいユニフォームは、まだ見慣れないが、選手たちは新しい伝統を作ろうと頑張っている」と語った。

また、先月4日―15日で行われた第60回関東大学バスケットボール選手権大会では、男子が3位決定戦で東海大学に破れ、4位の成績をおさめた。

個人賞は、アシスト王＝田渡修人（体専4年）

春季リーグ戦

## 女子　3勝で6位に終わる
## 男子　井上が敢闘賞

ハンド

平成23年度春季リーグ戦が4月30日―5月29日にかけて、日本体育大学健志台体育館（横浜市青葉区）などで行われた。

◆女子

女子は4月30日の桐蔭大との初戦を31対22で突破。その後も、東京女子大、日本女子体育大に勝利するが、東海大、日本体育大などに敗れ、3勝4敗で6位となった。キャプテンを務める中西明代（体専4年）は「相手に先手を取られ、すべてのプレーが後手後手になってしまったのが敗因だと思う。秋の大会まで時間がないので、とにかく選手一人ひとりが危機感を持って練習をがんばりたい」と話した。

◆男子

男子は東海大、中央大、法政大、国武大に勝利を挙げるも、4勝4敗1分で第6位という結果となった。ディフェンスの力が評価された井上元輝（同4年）が敢闘賞を受賞。舟木浩斗コーチ（研究生）は「秋に向けて、攻撃や得点の力を強化していきたい。選手全員で粘り強くパスを回して確率の高いシュートを打てるよう練習したい」と話した。

シュートを放つ本学選手

春季リーグ戦

## 震災の影響あり5位
## 入れ替え戦は免れる

野球

首都大学野球春季リーグが4月10日―5月23日に、平塚球場（神奈川県平塚市）行われた。本学は3勝8敗で5位に終わった。

シーズン前半は苦戦続きだった。帝京大戦、武蔵大戦と4連敗。「震災の影響でチームがまとまらないままリーグ戦を迎えてしまった。適時打が出ず、苦しい展開だった」と川村卓監督（体育・准教授）は振り返る。転機となったのは東海大戦。2連敗したものの、怪我で出遅れた平井孝治（体専1年）が復帰し、打線につながりが出た。5月6日の城西大戦の1回戦。5回までは無得点だったものの、6回表に松浦昌平（同2年）の適時三塁打で先制。平井の適時打も飛び出し、この回で2点を追加。その後も7回に丸山紘平（同3年）の2点適時打、8回には川本真也（同2年）の適時打、鈴木喜敬（同4年）のスクイズなどで着実に加点し、試合の主導権を握った。投げてはエースの久保貴大（同）が2安打完封。投打が噛み合い、6―0と快勝した。川村監督は「打線につなぐ意識が出て、チャンスで適時打が出るようになった。調整不足だった久保も復調し、いい試合だった」と試合を振り返った。本学は5月7日の城西大戦の2回戦も5―4と僅差で勝利し、勝ち点を手に入れた。

5月21日の日本体育大戦の1回戦。本学は日体大のエースの辻を攻略。2回に犠打内野ゴロで進塁した鈴木が、丸山の適時打で生還し、先制。4回表には平井のソロ本塁打で追加点を挙げ、5回にも内野ゴロの間に鈴木が生還し、リードを広げた。5回途中で辻が降板した後も着実に得点を重ねた。投げては久保が8回を3失点と粘投。最後は宮谷陽介（同2年）が3人で締めて、6―3で勝利。城西大戦から3連勝を飾った。川村監督は試合の感想を「一前の週が苦しいなかで、2週間かけて日体大を研究することができた。首位のチームから1勝したことで、自分たちの野球が出来れば勝つことが選手たちもわかったと思う」と語った。

しかし、続く2回戦、3回戦は辻に封じ込められ2連敗し、勝ち点を落とした本学。勝ち点1で今季を終えたものの、城西大に勝率で上回り、入れ替え戦は免れた。震災による調整不足もあり、不本意な結果となった今シーズン。川村監督は「反省点が多いシーズンとなったが、悪い点が浮き彫りになり、今後につながるのではないか。下級生主体のチームだったので、成長すれば優勝も狙える」と今季のリーグ戦を振り返った。

力投する久保（東海大戦）　（写真提供＝筑波大学スポーツアソシエーション）

## 記録ファイル

◆卓球　平成23年度春季関東学生卓球リーグ戦（5月9日―11日、東京武道館）【男子2部】筑波大4―0慶応義塾大▽筑波大4―0法政大▽筑波大4―2國學院大▽筑波大4―3日体大▽筑波大4―2東洋大▽2位

◆水泳　ジャパンオープン2011（5月19日―22日、大阪府立門真スポーツセンター）【男子】200㍍背泳ぎ・金子雅紀（体専2年）2分01秒73＝6位

グランドスラム・モスクワ

# 緒方が優勝、西山は準優勝

## アジア選手権で森下優勝
## 1年女子遠藤、松延が健闘

**柔道**

5月28日、29日、ロシア・モスクワで開催されたグランドスラム・モスクワに、本学から西山大希（体専3年）、森下純平（同3年）、緒方亜香里（同3年）の3人が出場し、緒方が78㌔級で優勝、西山が90㌔級で準優勝を飾った。緒方は、09年東京大会、翌年パリ大会に続く3度目のグランドスラム制覇。

緒方は準々決勝でオランダのフェルケルクを大外刈の有効、準決勝でブラジルのアギアルを指導2で下した。決勝ではハンガリーの新星ヨーを相手に腕がらみで一本を取り、優勝した。

西山は準決勝まで波に乗り、初戦以降は一本勝で勝ち進んだ。決勝ではギリシャのイリアデスと対戦。果敢に挑むが、袖釣込腰で一本を取られ優勝の座を譲った。

西山は「世界選手権で戦ったが、対応できなかった。ただ、練習してきた事を試して、手ごたえを感じられたのでその意味では良い試合ができた」と決勝を振り返った。

2回戦敗退した森下は「自分の柔道が研究されていて、相手と上手く組み合えなかった」と話した。

柔道部の増地克之監督（体育・講師）は「優勝から遠ざかっていた緒方は、結果が出て良かった。世界選手権までに最後の対外国人戦になったが、良い流れで臨めると思う。西山は、準決勝まで完璧な試合内容。決勝では自分を試すつもりで試合に臨んだ所もあり投げられたが、世界選手権に向け目標は明確になった。森下は、初戦を大事に、良い流れを作って乗るようにして欲しい」と話した。

◇

5月14日、15日にフランスのリヨンで、2011年仏ジュニア大会が開催され、本学の松延祐里（体専1年）が70キロ級で3位に入賞した。

本大会は松延にとって大学入学後初の海外試合。試合は各階級ごとにトーナメント形式で、スムーズに4強入り。準決勝ではフランスのデュラートに巴投げで一本負けした。

松延は「思い通りの柔道が出来ず、ライバルの結城久美子（東海大1年）が優勝し、悔しい気持ちがある。これから試合が増えるが、一つ一つの試合を大事にしたい。世界ジュニアに選ばれることを目標に頑張りたい」と話した。

増地監督は「大学からは力だけでは勝てなくなる。組み手と技を磨いてほしい」とエールを送っている。

◇

平成23年度全日本柔道選手権大会が4月29日、日本武道館で開かれた。本学からは、90キロ級の西山大希、66キロ級の森下純平が出場。西山大希が5位に入賞した。

西山は、2回戦で岩田勝博（兵庫県警）と対戦。試合開始直後から互いに激しく相手の襟を狙うが、50秒ほどで指導を受ける。その後2分12秒で鮮やかに大内刈りを決めた。4回戦では無差別級の本郷光道（フォーリージャパン）と対戦し、足技を狙う本郷に圧され気味だった。お互いに技を許さないまま、指導を2度受け敗北を許した。

西山は「組み手を研究されており、合宿も何度も一緒に練習していたが対応できなかった」と話した。

森下は無差別級の岩上真琴（警視庁）との戦いに注目が集まり、攻めの姿勢を見せると会場がよめいた。敏捷性で攻め、得意の内股を仕掛けようとするが大内刈りを決められ、惜しくも1回戦敗退した。

森下は「全日本への出場は3勝2敗1分、第一部12チーム中5位だ。

昨年関東リーグ戦を2位で通過した本学。今年は第1戦で流通経済大に敗北し開幕黒星スタートとなった。だが、その後の4戦を3勝1分とし、順調に勝ち星を稼いだ。

今月4日には、今年から第1部に昇格した青山学院大と対戦。本学は部上19分、フリーキックを直接ゴールに決められ先制されてしまう。その後、何度も敵陣に攻め込むものの、審判にファールを取られ、なかなかチャンスを作れずに試合終了。0−1で手痛い一敗を喫することとなった。

主将の三浦雄也（体専4年）は「今年は『本気』のスローガンのもと、本気で部員たちを引っ張っていきたい」と話した。

増地監督は今大会を振り返り「西山は2回戦の相手が組み手を嫌い、対策していたため苦労していたが、大胆さを欲しかった。森下は期待していただけに、もう少し攻めて欲しかった。体重差のある相手で、怪我をしなかったのは幸いだ」と話した。

◇

4月5日−7日にUAE・アブダビで2011年アジア選手権大会が開催された。66キロで森下純平、女子48キロ級の遠藤宏美（体専1年）が優勝。男子90キロ級の西山大希は準優勝した。西山と森下は、日本男子団体の2位入賞にも貢献した。

森下は2、3回戦共に得意の内股で一本勝ち。準決勝では韓国のチョ・ジュンホを相手に、払腰で有効を取り優勢勝ちした。決勝ではモンゴルのツァガンバートル相手に内股を決め、優勝。森下「調子が良く、満足のいく柔道ができた」と振り返った。

西山は2回戦で中国のゼン・ジオを相手に内股で一本勝ち、準決勝ではカザフスタンのボラットを相手に大外刈りの一本勝ちで勝ち上がった。決勝では、韓国のリ・キュオンに背負い投げを決められ、準優勝した。

西山は決勝戦を振り返り「以前勝ったことがある選手だったが、両方の袖を絞られ、相手のペースに引き込まれた」と話した。

遠藤は「優勝しかないと思って試合に臨んだ。今年の講道館杯優勝を狙って一つ一つの技を磨きたい」と話した。

増地監督は「森下は、ツアガンバータル相手に個人、団体共に勝ち、自信になったと思う。安定感を作るのが課題だ。西山は体が硬く、膝が伸びるのでかつがれやすく、対策が必要。ただ力は十分にあり、成績も安定している。体を大事に、ピークを世界選手権に持っていって欲しい。遠藤は、日本のレベルの高い48キロ級に割って入って行かなければならない。先輩の福見を手本に、再来年の世界選手権を見据えて欲しい」と話した。

**関東選手権**

## 男子　村上が3位入賞
## 女子　三苫が敢闘賞受賞

**剣道**

第57回関東学生剣道選手権大会が5月8日、第43回関東女子剣道選手権大会が兼ねていて、入賞した村上と三苫に加えて、男子は神田智浩（同）と佐伯太郎（同3年）が、女子は仲本瑞希（同2年）が出場を決めた。

村上は6戦目に、前回優勝の西村龍太郎（早大）と対戦。「1場だ」と意識しながらも日頃の稽古を忘れず、延長で西村を下した。準決勝まで駒を進めたが、日体大の川崎輝士に敗れた。大会を終え、「久しぶりに自分の『攻める剣道』ができた」と評価する村上だが、「悔しかった」と勝ちへの執着心は変わらない。全日本では気持ちを切り替えて優勝を目指す。

三苫は5戦目を勝ち上がり準々決勝へ進出。法政大の竹村奈緒美と竹刀を交えた。積極的に前に攻めた三苫だったが延長ですきをつかれ竹村の面を許し、前大会の自身の成績である準優勝には届かなかった。全日本に向けて「4年生で最後の個人戦なので、悔いを晴らし、さらに楽しんできたい」と語った。

ベスト16入りを逃したものの敢闘復活戦で全日本への切符を手にした仲本は「精神力や技など自分のやるべきことが見えた。全日本では試合を重ねることに強くなりたい」と向上心がたゆまない。

有田祐二監督（体育・講師）は本学女子の結果に「力を発揮出来なかったが、地力はあると思う。今回の結果が良い方向に向かえば」と期待を込めた。

**関東リーグ戦**

## サッカー
## 苦戦を終え5位
### 後半の巻き返しに期待

第85回関東大学サッカーリーグ戦が、国立西が丘サッカー場（東京・西区）などで行われている。本来は毎年4月上旬から開催される本大会だが、3・11の地震の影響で関東大学サッカー連盟が開幕の延期を決定。今年は5月3日の開幕となった。前期の全11試合のうち6試合を終え、本学は3勝2敗1分、第一部12チーム中5位だ。

昨年関東リーグ戦を2位で通過した本学。今年は第1戦で流通経済大に敗北し開幕黒星スタートとなった。だが、その後の4戦を3勝1分とし、順調に勝ち星を稼いだ。

今月4日には、今年から第1部に昇格した青山学院大と対戦。本学は部上19分、フリーキックを直接ゴールに決められ先制されてしまう。その後、何度も敵陣に攻め込むものの、審判にファールを取られ、なかなかチャンスを作れずに試合終了。0−1で手痛い一敗を喫することとなった。

主将の三浦雄也（体専4年）は「今年は『本気』のスローガンのもと、本気で

## 顔

### 日本女子テニス界の新鋭
### 石津幸恵（体専1年）

すらりと長い手足を生かし、全身を使ってストロークを打つ。しなやかな動きでボールをとらえる様は、まるで豹のようだ。

今春本学に入学したばかりの石津幸恵（体専1年）は、今日も陸上競技場傍のテニスコートで練習に励む。昨年7月のウィンブルドンジュニア選手権で、地元英国のホープを下し、日本人としては41年ぶりに決勝進出。準優勝を果たした。10月には念願のプロに転向し、女子テニス界も大注目する期待の選手だ。

石津にとってテニスは「ご飯を食べるのと同じ」。4歳でラケットを握り、医師で過練地医療に携わる父と二人三脚で練習を続け、国内外の試合に出場。数々の経験を積んできた。テニスの「プレイを通して喜怒哀楽を味わえる所」に魅力を感じるという。

石津の持ち味は攻撃性。最大の武器であるフォアハンドのストロークで相手を押していく。

世界を相手に戦うために「サーブのスピード力をつけたい。フットワークを良くし、コートのカバーリングを広げる」と課題を語る面持ちは真剣だ。

本学へ進学を決めたのは「教員免許を取得しよう」と思ったから。練習の自由度が高く、部員の仲が良い部活動の雰囲気が気に入っている。「女子だからフットワークの良い男子と練習させてもらえる。男子は自分が入ったと思っても打ち返してくるので力になります」と話す。

土浦から通学しテニス漬けの日々を送る合間に、友達とショッピングセンターに出掛けたりする甘いものが好きで、褒美にしてしまう所はさすがに女の子。「食パンにはまり、練習後に車で迎えに来てくれる母と一緒にパン屋巡りを楽しむことも。

既に世界を舞台にする石津だが、意外にも「精神面が弱い」と言う。自身の転機となったウィンブルドン女子ジュニアの決勝戦では、勝ちを意識しミスを恐れた。そのために「フォアを振り切れずに入ってしまった」と振り返る。ユース五輪は日本代表として出場、メディアの注目を一身に浴びた。しかし「メダル獲得」のプレッシャーに押しつぶされ敗退。悔し涙を飲んだ。

そんな石津が精神面の強化のために実行している事がある。それはマーカーを引きながら本を読み、感想をフートに書きつけること。スポーツ選手の言葉は参考になるという。試合には「チャレンジャーの気持ちで、勝ち負けを意識せず臨むのが一番」と、洋楽のヒップホップを聴いてリラックス。自分の良いプレイをイメージすることを心掛ける。

真面目に練習に取り組む努力家だが「楽観的で反省しない所がある」と笑う。試合前日には勝負メニューのサラダや寿司をチョイス。「縁起を担ぎます」とお茶目な一面も覗かせた。

目下の目標は、世界ランクを250番台から100番台へ上げ、グランドスラム大会に毎回出場できるようになること。その先にある夢は、かのウィンブルドンでの優勝だ。

持てる才能に揺るぎない自信が合わさった時、白いウェア姿の石津がウィンブルドンの芝生の上で魅せるプレイを楽しみにしている。（本紙・小川玲＝社会学類）

# 世界の教室から

## 寒くても温かい国、ロシア

**モスクワ市立教育大学（ロシア）**
**井上千恵美**

ロシアのイメージを変えていただきたい。これがモスクワで勉強していて一番思うことです。日本にいた時に持っていたロシアに対するイメージは一変したように思います。

2011年5月現在、私はモスクワ市立教育大学東洋学部日本語学科で交換留学生としてロシア語を勉強中です。ロシア語の授業は週5日、1日3時間程度です。そのほか日本語学科の授業を週1回聴講しています。

日本でのロシアのイメージとはどんなものでしょうか。自分の周囲では「寒い・暗い・怖い」というイメージでした。あとロシア人は無表情」というイメージもあるのではないでしょうか。

確かに冬のロシアは寒いし暗かったですが今の時期になると夜10時になってもまだ明るいです。そしてロシア人は怖くないです。ロシア人の学生は本当によく笑うし、気遣い屋さんです。こちらに来てから縁あって本当に色々な人と知り合いましたが、ロシア人は時々本当にびっくりするような優しさを発揮してくれます。

3月に日本で地震があった時、ロシア語の先生が次々と電話で「家族は大丈夫か!?」と連絡してくださいました。その後もしばらく友人や知人に会うたびに必ず家族や友人の安否を確認されて、また日本の心配をされました。ロシアでも日本の災害に関する報道は大変多かったです。また日本への募金や協力などが様々な場所で話題になっていました。

実は地震の前からロシアでは日本に対する関心は非常に高かったです。モスクワの町の中にはスシ屋が立ち並んでいるし、ウドン屋さんなるものもあります。そのような日本食レストランではスシ、ウドンのみならず、様々な日本食を提供しています。町の中心部ならどこでもスシ屋を見つけることができます。私が一番友人によく誘われたのは日本食レストランです。

食べ物だけはなく、若者の間では日本のアニメや漫画、ジャニーズや日本の俳優が思った以上に認知されているし、年配の方は日本の武道や茶道といった文化に興味を持っているようです。ロシアの人々の日本人に対するイメージはとてもいいように感じます。ロシアは親日国といっていいように思うのですが、それに対して日本でのロシアのイメージがあまり良くないように思います。

「親日国でも日本が"親日国"と認めなかったら親日国にはなれないんだね」というのは友人の言葉ですが、もっとロシア人の日本と日本人に対する好意が伝わればいいのになぁと感じます。

（国総4年）

ロシアの友人たちと（手前が井上さん）

## 雨降るも、無事に終了

**第35回春季スポーツ・デー**

第35回春季スポーツデーが、5月21日、22日に学内16カ所の会場で行われた。東北地方太平洋沖地震の影響が懸念されたが、総合体育館が使用不可能になり一部競技が体芸エリアから離れた会場で行われた以外には、地震による大きな影響はなかった。

ソフトボールやバスケットボールなどの正式種目8種の他、ミニバスケやキックターゲットなどの当日参加可能な気軽に楽しめる競技が行われ、体育会所属サークルによる体験教室も行われた。多くの参加者がさまざまなスポーツに打ち込み、休日の学内に熱気を漂わせた。

今年の総参加者数は合計6992人となり、昨年の秋季スポーツ・デーを1000人上回る結果となった。

本戦2日目となる5月22日は夕方から雨の予報が出たため、屋外の競技は急きょ予定を早めることで対応し、全ての競技でトーナメントを終えることが出来た。

正式種目のドッチボールで優勝したのは「ドッチだっぺよ」というチームだ。ドッチだっぺよは生物資源学類生を中心に構成されたチーム。ドッチボール経験者のリーダーが試合2日前に作戦を伝授し、試合直前に練習したかいにも関わらず優勝した。リーダーである池松俊哉さん（生環生資科1年）は「優勝できたのはフォーメーション練習を徹底したから。チームワークもよかった。これはどこのチームにも負けない」と喜びを語った。

また、相手の体に付けた的を水鉄砲で撃ち合う競技、Water Warsに参加した高山尋考さん（情科1年）は「とても楽しかった。クラスのみんなと水鉄砲をしてびしょ濡れになった。親睦を深めることが出来た」と笑顔で話した。

スポーツ・デー学生委員会委員長の木暮聖太さん（物理3年）は「正式種目の参加者数は昨年に比べ減ってしまったものの、学生委員会企画の参加者数が昨年の倍近くとなったことも嬉しいスポーツ・デーを運営していきたいと思います」と話した。

晴天の下でのWaterWarsの様子

**全学学類・専門学群代表者会議**

## 新議長団決定

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の第1回本会議が4月27日に開かれ、今年度の議長には成井暢宏さん（比文3年）、副議長には山下薫平さん（社学2年）、平柳良さん（知識図書2年）が選ばれた。

**――成井さんの抱負を。**

全代会の活動を活発にするために、全代会構成員同士の横のつながりを強めたい。そのために、まずは自分が副議長として構成員から信頼を得られるようにしたい。

**――平柳さんの抱負を。**

開かれた全代会、学生のための全代会を目指すため、学生から意見を直接集めて活動に反映したい。縮こまらず、いろいろなことを実行していきたい。

**――山下さんの抱負を。**

各委員会が新しいことをするときに議長団がバックアップ出来るよう、組織固めをしたい。全代会の活動を広めるために、クラス代表者会議や他の学生組織との交流を大事にしたい。

成井暢宏

山下薫平

平柳良

**3Eカフェ**

## 節電について議論
### 多様な意見出る

3Eフォーラムプロジェクトチームが主催する3Eカフェの一環として「計画停電を阻止せよ！～筑波大学節電プロジェクト～」が5月20日、総合研究棟B112で行われた。

3Eカフェとは本学生が中心となり、気軽な雰囲気の中で環境について語り合うことを目的としたイベントである。毎回、環境・エネルギー・経済の各分野で活躍するゲストを招いたトークショーを中心に参加者同士も交流できる構成になっている。

13回目となる今回は、東日本大震災の影響を受け、今年の夏に電力不足が見込まれることを想定して「今夏までに筑波大学で実施できる節電策」をテーマに行われた。

第1部ではゲストに川崎純平さん（株式会社ライトオン業務改革室）、前島謙長）、天沼拓人さん（つくば節電プロジェクト学生マネージャー）を招いて、それぞれの立場から、節電に対する取り組みについて話題提供が行われた。この中で、前島さんは「本学で実際運用する取り組みとして、当日の気温ごとに空調の入切を判断するなど、柔軟な節電対策を行いたい。また、節電呼びかけのためのポスター作りなど、啓発活動も行っていきたい」と話した。

第2部では、グループごとに分かれ、個人で出来る節電・団体で出来る節電・節電促進の3つの論題について、参加者同士の意見交換が行われた。個人で出来る節電のアイディアとしては、「パソコンのディスプレイの照度を下げる」、「エアコンのフィルター掃除をこまめに行う」などの意見が出た。また、節電促進のアイディアとしては、「節電キャラクターを作る」、「宿舎で電力を削減した人に特典を与える」などの意見が出た。

なお、参加者から集められた意見は、大学本部に臨時で設置された節電関連の委員会に提案したり、関係する学生組織の活動に取り込んだりの出来るように検討していく。

## SAVE POWER. 節電意識の徹底を

東日本大震災の影響による今夏の電力不足に対応するための、本学の節電の基本方針が決まった。筑波キャンパスでの削減率25％を目標に、集中空調の50％節減、照明・電気器具台数を半分に間引くなど、思い切った節電対策をとる。実施期間は7月1日から9月22日（平日のみ）までの毎日午前9時から午後8時。冷房・空調では、集中空調の50％節減運転に加えて、個別空調は設置数に対する稼動台数が50％になるように調整する。動物の飼育、細胞の培養など、特別な理由がある場合でも、利用場所の集約を行い、機器を最低限の台数に限る。

天井灯の照明は最低でも2分の1に間引き、夕方・夜間を除き原則消灯。冷蔵庫、印刷機、コピー機等は原則台数を2分の1とする。パソコンは節電モードで不要な場合は必ずスイッチオフとする。連続運転が必要なサーバー等も、設置場所と利用の集約を行なう。

実験機器等については、可能な限り節減時間帯には使用せず夜間に使う。連続運転が必要な機器は、可能な限り共用して台数を絞る、出来るだけ週末に運用する。

また、節電意識の向上のため、SAVE POWER、と書かれたうちわ2万7500本を筑波地区の全学生と教職員、東京キャンパスなどの附属学校生徒と教職員に配布した。

また、この夏、節電中の筑波キャンパスで行われる大学説明会に来る高校生や父母にも「IMAGINE THE FUTURE.」のうちわを2万本用意して配布、節電への理解を求める。

**筑波学生文芸賞**

## 締め切り迫る

第4回筑波学生文芸賞の作品募集が4月1日から行われている。応募締め切りは6月30日。

募集枠は400字詰め原稿用紙30～80枚の一般部門と、同15枚以内のベリーショート部門。ジャンルは問わず、1人各部門3作品まで応募出来る。応募方法は、ワード形式のファイルをメールで送付する。

応募資格はつくば市に住む専門学校・短大・大学・大学院生であること。

一般部門から大賞1作と佳作2作、ベリーショート部門からベリーショート賞を3作程度選出する。受賞作は同賞運営委員会発行の冊子に掲載され、10月の雙峰祭で無料配布される。

同賞運営委員長の竹前みね花さん（生資3年）は「皆さんの参加をお待ちしています。奮ってご応募ください」と話す。

詳細はホームページ＝http://tbaward.com/

**学長との茶話会**

## 教職員と意見交換

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の活動を報告し、構成員と大学教職員の交流を目的とする、学長と全代会構成員との茶話会が、今月6日に第一エリア食堂で行われた。大学側からは、山田信博学長、西澤潔副学長（学生生活担当）らが参加した。

第1部は職員の紹介、全代会議長団・委員会の説明および質疑応答が行われた。議長団と7つの委員会の活動方針の報告の後の質疑応答では、辻中豊副学長（国際担当）が、「留学生のための委員会や、社会貢献を行う委員会も考えてみてはどうか」と提案した。全代会議長の成井暢宏さん（比文3年）は「検討はしたいがしないかもしれない」と答えた。その後も駐輪場の利用マナーの改善などが話題にあがり、教職員と全代会の学生との活発な意見交換が行われた。

山田信博学長は、「各種委員会の意欲を感じた。全代会構成員には、チームワークを大切にしてリーダーシップを発揮してもらいたい」と総評した。

第2部の自由懇談では普段あまり接することのない教職員と学生が一堂に会し、本学の今後を語りあった。全代会副議長の平柳良さん（知識図書2年）は「有意義な会だった。震災関係の活動をしていきたいと考えており、鈴木久敏副学長（総務担当）と話を出来たのがよかった」と話した。

雨天のため

# 本祭中止

第37回宿舎祭

## 前夜祭

# 前夜祭は予定通り開催
## 後日行われた企画も

盛り上がる野外ライブ

曇天が続く中、5月27日午後4時30分、前夜祭が始まった。

メインステージでは野外ライブが開催され、さまざまな音楽団体が演奏を行った。手拍子や歓声が湧き、会場は熱狂に包まれた。バンドメンバーの男子学生は「とても楽しかった。観客のみんなと一体になれたし、熱気がすごかったので、自分たちも盛り上がることが出来た」と演奏を終えた感想を語った。

また、パフォーマンス会場では「世界3分の1選手権」が昨年に引き続き開催され、参加者は紙飛行機飛ばしやジェンガ積みなどの世界記録の3分の1の記録達成を目指した。午後7時時点で参加人数が60人を越えるなど昨年以上に盛況だったという。参加した東梅栞さん（日日2年）は「テニスボールを手に乗せるのとゴルフボールを重ねることに挑戦した。楽しかった」と感想を語った。

前夜祭の最後には燃え盛る火文字が披露された。太鼓演奏をバックに「和」の文字が浮かび上がると、観客からは大きな拍手と歓声が上がった。携帯やデジタルカメラで撮影する人もいる中、盛況のまま前夜祭の幕が下りた。（1面に写真）

## 本祭中止

社会学類の「ドンマイの会」にて

前夜祭は予定通り開催されたが、28日の本祭は雨により順延。予備日の29日も雨だったため、今年度のやどかり祭本祭は中止となった。

模擬店などの仕入れをしていた団体・クラスは赤字となり、模擬店でたこ焼きを販売する予定だった斎藤聡介さん（社学1年）は、「2万円の赤字は大きい。仕入れたタコも駄目になってしまった。如何ともしがたい」と苦い表情で述べた。

また、ゆかコン嬢の武田栄華さん（社学1年）は「雨でも何とか開催してほしかった。単に『中止』ではなく、延期などといった開催のための柔軟な道があったと思う」と悔しそうに話した。

雨天中止にもめげず、商品を売る団体があった。29日夜に社会学類1年が行った「ドンマイの会」では、社会学類クラスが、仕入れたチュロスを当初の価格より大幅な安値で学類の人々に販売した。

企画や準備においてクラスを率先して取りまとめていた千塚未樹子さん（社学1年）は、「本祭でチュロスを多くの人に食べてほしかった。けれど、学類のみんなに食べてもらえて嬉しかったし、準備を通してクラスの絆が深まった」と語った。

◇

雨天のため28日に出来なかった神輿パフォーマンスが、6月5日の午前10時に平砂共用棟前で行なわれた。パフォーマンスに社会学類、芸術専門学群、国際総合学類の3団体、神輿の展示に学園祭実行委員会、医学群を加えた5団体が参加した。会場は参加者の熱気と多くの観客で盛り上がりをみせた。

神輿では芸術専門学群が制作した、今にも動き出しそうな龍の神輿が一際目立った。鱗の一枚一枚まで丁寧に作られており、技術の高さをうかがわせた。

またパフォーマンスをしていた齋藤礼さん（国総1年）は「徹夜してまで練習、準備をしていたので、達成感に溢れている。ダンスの息がそろわなかったり、神輿作りと並行しての練習で大変だったが、良い経験になった」と語った。

平和を伝える国際総合学類のパフォーマンス

◇

雨天中止にもめげず、商品を売る団体があった。29日夜に社会学類1年が行った「ドンマイの会」では、社会学類クラスが、仕入れたチュロスを当初の価格より大幅な安値で学類の人々に販売した。

企画や準備においてクラスを率先して取りまとめていた千塚未樹子さん（社学1年）は、「本祭でチュロスを多くの人に食べてほしかった。けれど、学類のみんなに食べてもらえて嬉しかったし、準備を通してクラスの絆が深まった」と語った。

◇

雨天のため28日に出来なかった神輿パフォーマンスが、6月5日の午前10時に平砂共用棟前で行なわれた。パフォーマンスに社会学類、芸術専門学群、国際総合学類の3団体、神輿の展示に学園祭実行委員会、医学群を加えた5団体が参加した。会場は参加者の熱気と多くの観客で盛り上がりをみせた。

神輿では芸術専門学群が制作した、今にも動き出しそうな龍の神輿が一際目立った。鱗の一枚一枚まで丁寧に作られており、技術の高さをうかがわせた。

またパフォーマンスをしていた齋藤礼さん（国総1年）は「徹夜してまで練習、準備をしていたので、達成感に溢れている。ダンスの息がそろわなかったり、神輿作りと並行しての練習で大変だったが、良い経験になった」と語った。


平和を伝える国際総合学類のパフォーマンス

**強制わいせつ**

## 本学生を逮捕

茨城県警つくば中央署は今月6日、強制わいせつの疑いで本学理工学群3年生の男性（20）を逮捕した。

同学生は、5日午後8時ごろ、つくば市の路上で、歩いて帰宅途中の団体職員の女性の胸を後方から触ったなどの疑い。

つくば中央署によると、同学生は犯行後、現場から逃走し、被害を受けた女性が警察に通報。駆けつけた署員が同学生を近くで発見した。

大学は「事実関係を確認し、厳正に対処する」としている。

**消火器訪問販売**

## 注意呼びかける

本学生を狙った消火器の訪問販売による被害が相次いでいる。

春日3丁目で先月18日、本学生の居住するアパートに50代の男性が防災点検を装い、訪問。「消火器を設置することが法律で義務付けられている」などと言い、消火器を高額で売りつけたという。消火器を売りつけた男性は会社名を名乗っておらず、領収書も渡していないため、クーリングオフできないという。

本学周辺では同様の被害が多発しており、学生生活課に3件、消費生活センターに6件の被害が報告されている。実際には消火器を設置していなくても法に触れることはなく、消火器の設置は個人の選択にゆだねられている。

学生生活課は消火器の訪問販売に関する立看板を設置するなど、学生へ注意を呼びかけている。

震災におけるこころのケア講演

## ストレスへの対処法を語る
### 効果的な呼吸法も紹介

人文・文化学群、社会・大学のみんなを守ろう」が国際学群、人間学群に所属する各学類主催の講演会「東日本大震災におけるこころのケアについて～筑波」が今月1日にH101で行われた。学生・教職員約100人が参加、松井豊教授（心理専攻、佐藤純講師（ケア）の講演を聞いた。

松井教授は「東日本大震災によるストレスについて～自分のストレスを理解し、支えあうことの出来る仲間と一緒にストレスと向き合いながら、このつらい時期を過ごしてほしい」という題目で講演を行った。地震によって生じるストレス反応は親しい人と一緒にいたり、互いに支え合える関係のある人と話すことでケアされるという。講演の最後に松井教授は「つらい思いをしているのは自分だけではないことを理解し、支えあうことの大切さ」というタイトルで、災害によるストレスについて説明し、その後簡単に行えるストレスケアとして呼吸法・筋弛緩法を紹介した。参加者は呼吸法と筋弛緩法を実際に行い、ストレスケアへの理解を深めた。佐藤講師は「色々なストレスを感じたりストレス反応が出たら、保健管理センターや総合相談窓口を利用してもらいたい」と話した。

講演会に参加した梅川きよねさん（社学2年）は「自分は震災によるストレスを受けていないと感じていたが、講演会に参加し、実際はストレスを受けているということがわかった」と感想を語った。

## 体験記

3月11日の東北地方太平洋沖地震後、多くの本学生のなかの1人が、本紙に体験記を寄せてくれた。

◇

私は、5月8～14日の7日間、南三陸町内の避難所で活動してきました。

南三陸町は町のほぼ全域が津波の被害を受けており、海から直線距離で約3キロメートルの所に船が流れ着いているような状況でした。電気は5月上旬にやっと復旧しましたが、未だに断水は続いています。

そんな中で私は、避難所で主に「傾聴ボランティア」と呼ばれる活動をしてきました。

避難所には最高齢者です。通常であれば趣味や買い物、散歩などをして過ごすのでしょうが、避難所ではそれらの活動が出来ません。そのため、食事以外の時間、暇を持て余している方が多く、私たちはそのような方々とコミュニケーションを取り、少しでもストレスを解消していただくことが活動目的でした。

7日間、趣味などの日常会話から震災の体験談まで、さまざまなことを伺いました。中でも、震災後の状況を直接被災者の方からほぼ過酷であったか、どんな思いであったかということが、今回の現地ボランティア活動の中で最も大きな収穫でした。

私が今までは得ていたものは、テレビや新聞からの情報でした。しかし現地に行き、実際にその光景を目にしたり、とてもリアルで心に重くのしかかりました。情報というのは、内容に加え、話し手が私の顔や名前を覚えてくださったり、名前を覚えてくださった目の前にいる「○○さん」であるということ、語る表情・仕草・言葉の間など、内容以外の情報も自分のもとに届きます。それにより、どれほど過酷であったか、どんな状況を伝えたことが、より強く伝わってきます。

被災地の復興のスピードは、それを支える私たちの関心が薄れることによって減速していきます。

現地ボランティアは、その体験によって強烈な印象を受け、被災地への意識を長期間保つ一助になります。現地ボランティアを始め、さまざまな活動をこの機会に展開し、長期的に支援することが、今回の震災には求められていると感じました。（辻村夏穂＝社学4年）

## ボランティアに行く人のために

## 支援団体

自分もボランティアをしたい、被災地のために何かしたいと思っている人も多い。そのような熱意をまとめ、被災地に届けるのがボランティア支援組織だ。中川遼太さん（生資科2年）が代表を務めるTsukuba for 3・11もその1つだ。中川さんは被災地でボランティアを行い、その中で被災者支援と復興への長期的な関与が必要だと考え、4月に同組織を立ち上げた。

登録フォーム＝http://ow.ly/4KRBt

Tsukuba for 3・11では、さまざまなボランティアプログラムの情報提供を行っている。登録した学生は自分の予定にあったプログラムを探すことが可能だ。また、服装や準備するものなど、ボランティアに関するさまざまなアドバイスも行う。同組織には6月8日現在で約80人が登録し、約30人が現地へ行った。中川さんは「現地までの交通手段、食事、宿泊場所などの手配は個人ではなく、支援組織を通した方がいい。筑波学院大生とも協力して、地域全体でボランティアに関わっていけるようにしたい」と話した。

プログ＝http://ameblo.jp/tsukubafor311/

## 臨時休講

# 9月12日から授業開始

今夏は電気事業法第27条に基づき、大学には電力使用制限が課せられる。それに伴う夏期の電力不足に対応するため、本学は9月1日（木）－11日（日）までを臨時休講とする。

しかし、卒業研究や論文作成にかかわる実験など、重要な授業時の確保や集中授業の実施などにより、授業が実施される場合もある。その場合は、掲示や授業担当教員の指示に従う必要がある。

## 夏季休業中の図書館

# 震災による影響も

夏季休業中（7月1日・開館　午前9時－午後5時　貸出　午前9時－午後4時　土・日・祝日は閉館）、図書館の開館時間と貸出時間は次の通り。

震災に伴う電力使用制限により、開館日や開館時間に影響が出ている。

◆中央・体芸・図情図書館
開館　午前9時－午後8時　貸出　午前9時－午後7時半

中央・図情図書館は7月2、3日（土・日）、9月3、4日（土・日）、10、11日（土・日）は午前10時－午後6時（貸出は午前10時半－午後5時半）まで開館。各館とも、今後決定される全学夏季一斉休業期間は閉館。

◆医学図書館
開館　午前9時－午後8時　貸出　午前9時－午後7時

6月24日（金）－8月31日（水）の間に、貸出及び更新を行った図書の貸出期間は通常の3週間より延長される。

## 大学説明会

# 7月から8月にかけ実施

大学説明会が、7月23日の5日間に行われる。

7月23日（土）には人文学類、教育学類、心理学類、障害科学類、情報科学類、7月24日（日）には社会学類、国際総合学類、地球学類、社会工学類、情報メディア創成学類、7月30日（土）には比較文化学類、生物資源学類、工学システム学類、知識情報・図書館学類、医学類、7月31日（日）には日本語・日本文化学類、生物学類、看護学類、医療科学類、体育専門学群、芸術専門学群、8月27日（土）には数学類、物理学類、地球学類の説明会が行われる。

参加希望者は、大学ホームページ上のフォームから申し込む。

## クロコディロスコンサート

# 無絃塾とのステージ

世界的に活躍するハーバード大学の男声アカペラグループ「クロコディロス」のコンサートが、6月22日（水）に行われる。昨年と同様、本学の井坂流津軽三味線倶楽部「無絃塾」とのコラボレーションとなる。

会場はノバホール、午後7時開演（開場は30分前）。チケットは、学生1000円、一般2000円、全席自由。問い合わせ＝080・5244・8168（高石）

## 編集後記

新年度が始まって早くも2カ月。今年も個性あふれる9人の新人記者が加わり、編集部もにぎやかになりました。中でも、某学類誌の編集員も務めているN君は、見出し付けなどでキラリと光るセンスを見せてくれました。

筑波おろしや学生生活面で触れていますが、今年の夏は「節電」が求められています。暑い日が増えてきましたが、編集部でも冷房には頼らず、夜の作業を窓を開けて行うなど、昨年までとは違う夏を迎えようとしています。ただ、窓を開けていると光に釣られた蛾が中に……。りん粉アレルギーを持つ私にはつらい季節です。新入記者は入って来てくれてうれしかったですが、蛾は出来れば外を飛んでいてほしいです。（編集長・西川大照＝社学3年）

次号は
**9月5日（月）**
発行予定です

# Who's Who?

「学び場さくら塾」の2代目代表

## 金岡孝浩 さん（人文3年）

「学び場さくら塾」で新しい教育を作る金岡さん

### 地域と大学つなぐ無償の塾
### 教えることで自分も育つ

「良いボランティアって何だと思いますか？」こう問いかけるのは金岡孝浩さん（人文3年）だ。つくば市の小中学生を対象に勉強を教えるボランティア団体「学び場さくら塾」の2代目代表を務めている。「僕はね、自分のためになるボランティアだったら、より良いよねって、いつも言ってるんです」自分に言い聞かせるように金岡さんは語る。

「学び場さくら塾」はつくば市桜地区県営住宅の集会所で行われている。昨年5月、本学のつくばアクションプロジェクトから生まれた。資金もコネも実績もない学生が、自発的に塾を立ち上げ、地元の小中学生に勉強を教えるということは、全国的にも珍しい試みである。

19時半が近づくと、さくら塾にはだんだん子どもが集まってくる。靴を脱いで、木張りの床に座布団を敷いて座り込む様子は、「寺子屋」のようだ。ひとりの生徒に対して一人の学生がつき、学校での出来事などを尋ねながら指導は始まる。窓が大きく、外からでも授業の様子がよく見られるので、保護者も安心だ。

金岡さんは、昨年9月から新代表に就任した。「子どもたちの『なんで？』『出来ない』に一つひとつ応えること、子どもと心理的に近い距離で授業を行うことに可能性を感じています。また、普通の塾には通わずに、さくら塾だけに通って公立高校に合格した生徒もいます」という。

設立当初は5人だった運営メンバーも、約30人までに増えた。学生と地域をつなぐ「無償の塾」を尋ねに、東京から視察に訪れる人も多い。

高校教員を志している金岡さんだが、自身が幼少のころはやんちゃな子どもだった。しかしそんな中でも、毎日の読書だけは欠かさなかった。父親が読書家で、父親の部屋にある本を少しずつ借りて読んでいました」

高校教員を目指すきっかけは、中学校のときに出会った先生の影響があった。「授業が楽しくて。本当に面白い人だったんです。こんな授業が作りたいと思いました」当時を懐かしむように、金岡さんは語る。

小中学生を預かるということには大きな責任が生じる。「保護者は、学生の教育に対する熱意だけでは自分の大切な子どもを預けない。組織体制の明確化や安全性、責任の所在などについては常に意識しつつ運営しています」

「生徒や保護者とのかかわり合いの中で、逆に自分自身が育てられた部分が大きいです」と金岡さんは語る。「自分が価値のある授業だと思っていなければ、人に価値を与えることは出来ない。『授業』は、子どもにもわかるプレゼンテーションだと思っていますから」最初に金岡さんから問いかけられた「より良いボランティア」の答えがここにある気がした。

（本紙・梅野なぎさ＝社会学類）

## 催事

### 講演会

筑波大学スポーツアソシエーション事務局の主催で「TSAスポーツメディアセミナー～スポーツにおける情報発信の可能性～」が6月21日（火）の午後7時から5C216で行われる。

事前申し込みは不要。問い合わせ＝029・853・8093（高野・戸波）

## 筑波大学出版会 新刊案内

### 気概と行動の教育者 嘉納治五郎

**生誕150周年記念出版委員会編**

本学の前身校の校長を長く務められた嘉納治五郎先生の生誕150周年記念出版。体育専門学群長阿江通良教授、人間総合科学研究科真田久教授他、国内外の研究者17名による共同執筆。A5判上製、370頁。2800円＋税。

## 大学会館書籍部ベストセラー

| | |
|---|---|
| 1 | マネジメント　エッセンシャル版<br>P・F・ドラッカー／ダイヤモンド社 |
| 2 | '12 論文試験 頻出テーマのまとめ方<br>吉岡友治／実務教育出版 |
| 3 | 公務員試験　速攻の時事<br>実務教育出版 |
| 4 | プリンセス・トヨトミ<br>万城目学／文春文庫 |
| 5 | 公務員試験　速攻の時事　実践トレーニング編<br>実務教育出版 |
| 6 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら　岩崎夏海／ダイヤモンド社 |
| 7 | 聞いて覚える英単語キクタンTOEIC Test Score800<br>一杉武士／アルク |
| 8 | 夜は短し歩けよ乙女<br>森見登美彦／角川書店 |
| 9 | これからの「正義」の話をしよう<br>マイケル・サンデル／早川書房 |
| 10 | 天と地の守り人―第三部　新ヨゴ皇国編―<br>上橋菜穂子／新潮文庫 |

万城目学の「プリンセス・トヨトミ」が4位に、上橋菜穂子の「天と地の守り人」が10位に初ランクインした。

「プリンセス・トヨトミ」は、大阪を舞台に親子の絆を描いたパラレルワールド的な作品。

3カ月連続トップ10入りを果たした岩崎夏海の「もしドラ」も根強い人気を保っている。

アルクのブックフェアが6月30日まで行われる。

## 筑波自然図鑑

### ◇アヤメ◇

撮影地＝筑波実験植物園

ゴッホの名画といえば「ひまわり」に「アイリス」。アイリス（＝Iris）はアヤメ属を指す学名でもある。両者が優れていて甲乙つけ難いことの喩えに「いずれあやめか、かきつばた」とあるが、どちらの植物も同じアヤメ属なので紛らわしいのもやむを得ない。外側の花弁に入った虎斑模様が、アヤメを区別するポイントである。（写真・文＝松尾恵梨子、生物3年、野生動物研究会）